

平成 20 年度
人材育成委員会 活動報告

平成 21 年 3 月



社団法人コンピュータソフトウェア協会

CSAJ 人材育成委員会 2008 年度活動について テーマ「ソフトウェア業界の人材育成と ITSS との連動性について」

平成 20 年度の人材育成委員会の活動方針としては次の 3 つの活動を中心に行いました。

1. ITSS 推進運動

CSAJ の人材育成委員会では ITSS の発表の 2002 年度より、その普及活動を行ってきました。ITSS スキル診断が可能な各社の診断プログラムを精査し、各社の特徴を把握し、その利用方法についてもガイドを出してきました。さらには CSAJ のメンバーの中から公募した ITSS 導入を実証実験として行い、その会社では ITSS 体系を導入することにより、社内外の評価が高くなり、その結果、業績が飛躍的に伸びることができました。その後も Version 変更のたびにその内容をメンバーに紹介して ITSS の導入を推進してきました。同時に ITSS の概説・利用方法を Web で紹介することも行ってきました。平成 21 年度も 3 月に発表になった Version3 の認知と普及活動を推進します。具体的な普及活動としては、Version3 の説明会、ITSS 体系の構築を希望するメンバーの募集とサポートチームの編成、さらにはスキル診断システムの精査、IT 人材の面談・評価方法の実証実験を計画します。平成 21 年度はできれば人材派遣事業者での ITSS 体系構築の実証実験を行う方向でメンバーを募ります。

平成 20 年度は 3 つのメンバー企業において ITSS 体系導入の実証実験を行いました。

ニスコム社（派遣業）

46 名のトライアルを行い、本格稼働を平成 21 年度より開始

アールワークス社（SI 企業）

5 名のトライアルを行うが、評価基準が現行業務との不整合があるので中断

システムエグゼ社（システム開発企業）

社内の現状把握に時間が掛かり、本格導入は 21 年度の予定

2. IT パスポート推進

平成 20 年度の経済産業省の人材育成ワーキングに参加し、平成 21 年 4 月よりスタートする IT パスポートの普及活動として 12 月より IT パスポート紹介セミナーを計画し、1 月下旬より全国 7 カ所（東京 2 回、大阪、名古屋、広島、福岡、札幌）で IPA の協力を得て展開しました。今回の IT パスポートは従来の初級シスアド試験に代わって社会人として必要な IT 基礎知識を修得していることを証明する資格として登場しています。4 月の試験結果を分析し、平成 21 年度の活動の中でさらなる IT パスポートの普及活動を計画したいと考えております。この資格の位置づけを経営者・人材採用担当者に熟知を促し、同時に社員のスキル診断の 1 つのツールとして利用し、さらには IT パスポートをレベル 1 とする ITSS 体系の導入へと導きたいと考えています。

3. 産学共同による IT 人材育成の支援

IPA の IT 人材育成 iPedia では、高度 IT 人材の早期育成を図る上で重要となる高等教育機関における実践的な IT 教育の拡充・普及を促進するための情報提供サイトとして産学協同による実践的 IT 人材の教育事例やそのシラバス、教材などの資料や IT 人材育成を取り巻く状況などの関連情報を提供されています。これは経済産業省が推進している、情報サービス・ソフトウェア産業の競争力強化のために高等教育機関において実践的な IT 教育を実施することで、産業界に高度な IT 人材を輩出することが必要であるとの問題意識を掲げ、産学協同による実践的な教育訓練を支援する事業として行われているものです。これに対して、協会としても同じ主旨での活動を推進しました。IPA の活動には CSAJ からは 4 名の委員が参加して、平成 21 年度への活動へと繋いでいます。

2009 年 3 月 24 日

人材育成委員会
委員長 宇野和彦

目次

目次.....	2
人材育成委員会 委員名簿.....	3
人材育成委員会 実施概要.....	4
人材育成委員会 実施内容.....	6
第1回人材育成委員会 配布資料抜粋	6
第2回人材育成委員会 配布資料抜粋	13
第3回人材育成委員会 配布資料抜粋	15
第4回人材育成委員会 配布資料抜粋	18
第5回人材育成委員会 配布資料抜粋	21
第6回人材育成委員会 配布資料抜粋	23
「ITパスポート試験紹介セミナー」実施報告書.....	26

人材育成委員会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

委員長	宇野 和彦	株式会社スキルメイト
委員	(参加メンバー)	
	尾上 卓太郎	(ニスコム株式会社 / CSAJ 人材教育担当理事)
	中原 凡子	(株式会社セルパン / CSAJ 人材教育担当理事)
	本多 敦子	(株式会社アールワークス)
	池永 恵	(株式会社アールワークス)
	依田 出	(株式会社アイティーシー)
	小林 孝彰	(株式会社アイティーシー)
	西野 秀樹	(株式会社インテリジェント ウェイブ)
	平山 雅章	(株式会社インテリジェント ウェイブ)
	木田 徳彦	(株式会社インフォテック・サーブ)
	原 良恵	(株式会社インフォテック・サーブ)
	羽木 博行	(株式会社大塚商会)
	本谷 芳彦	(オデッセイヒューマンシステム株式会社)
	高木 一雄	(カシオ情報機器株式会社)
	平居 透	(クオリティ株式会社)
	関根 弘一	(クオリティ株式会社)
	橋村 健一郎	(コガソフトウェア株式会社)
	金久 洋子	(株式会社ジェーイーティー)
	大戸 夕子	(株式会社システムエグゼ)
	三田 誠子	(株式会社システムカルチャー)
	稲田 博	(株式会社セブン・ワイズ)
	伊藤 誠康	(株式会社セルパン)
	江崎 利恵	(株式会社セルパン)
	西山 美穂	(株式会社セルパン)
	今枝 暁子	(日本ソフトウェア産業協会)
	稲垣 朗	(ニスコム株式会社)
	島津 靖久	(ニスコム株式会社)
	河田 照信	(ネクストウェア株式会社)
	斉藤 実	(株式会社ネクストエデュケーションシンク)
	渡邊 洋治	(株式会社ネクストエデュケーションシンク)
	捧 智哉	(株式会社ネクストエデュケーションシンク)
	山端 久美子	(株式会社ネクストエデュケーションシンク)
	張替 利之	(株式会社ネクストエデュケーションシンク)
	本田 祐子	(株式会社バース情報科学研究所)
	佐藤 誠	(株式会社ビジネスコンサルティング)
	大西 司	(フューチャーアーキテクト株式会社)
	金森 忠昭	(モバイルコンピューティング推進コンソーシアム)
	片山 栄子	(株式会社ライトニング)
	竹島 覚朗	(株式会社ライトニング)
	片山 祐希	(株式会社ライトニング)
	須古 勝志	(株式会社レイル)
	久保 宗弘	(株式会社レイル)
	前田 三奈子	(株式会社レイル)
	網野 照之	(株式会社レイル)
	吉田 亜津美	(株式会社レイル)
	津留 正良	(株式会社ワークスアプリケーションズ)
	浮島 由美子	(Y's ラーニング株式会社)

事務局 戸島 拓生 社団法人コンピュータソフトウェア協会

人材育成委員会 実施概要

人材育成委員会

- 第1回 日時：平成20年9月9日(火) 13:00～15:00
場所：平河町マーキュリアルーム
議題：新情報処理技術者試験について
説明：川口 修 氏(独立行政法人 情報処理推進機構 参事
情報処理技術者試験センター長)
- 委員会活動趣旨説明
委員会活動に関する意見交換
今後のスケジュール
- 第2回 日時：平成20年10月7日(火) 15:00～17:00
場所：平河町マーキュリアルーム
議題：ITSS ベースの人材育成体系構築のために
「共通キャリア・スキルフレームワーク」の利用方法について
スキル診断システムのご紹介(4社)
人材育成の情報交換
- 第3回 日時：平成20年11月12日(火) 13:00～15:00
場所：平河町マーキュリアルーム
議題：IT パスポート試験について
- IPA が広報資料を配付
- 共通キャリア・スキルフレームワーク第一版発表
IT パスポート試験対策について
- 対策講座の紹介・eラーニングの紹介
- P 検の活用に関して
パソコン検定試験と IT パスポートの位置関係について
ITSS 導入に関して
- ITSS V3 2008 が発表
- 本年度導入実証実験の企業の発表と今後の活動内容について
- 期待される効果について
- 第4回 日時：平成20年12月4日(木) 15:30～19:00
場所：平河町マーキュリアルーム
議題：IT パスポート推進活動
- IT パスポートパンフレット完成
- IPA の企画している告知活動とは
- CSAJ としての告知活動について
IT パスポートを授業に取り入れる学校に関して
- CSAJ が提案して導入を検討している学校
- その他で導入を検討している学校
ITSS 導入実証実験企業の現状に関して
- ニスコム
- システムエグゼ
- アールワークス

平成 21 年度予算についてとその狙い

- 経済産業省
- 文部科学省・総務省

IT 人材育成に関する情報交換

- 第 5 回 日時：平成 21 年 2 月 17 日(火) 15:00～17:00
場所：平河町マーキュリアルーム
議題：IT パスポート紹介セミナーについて
ITSS 導入実証実験企業の現状に関して
産学連携 IT 人材育成実行 WG
平成 21 年度人材育成委員会活動方針について
IT 人材育成に関する情報交換
- 第 6 回 日時：平成 21 年 3 月 17 日(火) 15:00～17:00
場所：平河町マーキュリアルーム
議題：IT パスポート紹介セミナーアンケート分析
ITSS 導入実証実験企業の現状に関して
IT 人材調査報告（IPA 資料参照）
産学連携 IT 人材育成実行 WG 活動方針案
平成 21 年度人材育成委員会活動方針について
IT 人材育成に関する情報交換

人材育成委員会 主催セミナー

・ IT パスポート試験ご紹介セミナー（全国 6 都市 7 会場で実施）

平成 21 年 1 月 26 日（月）於：名古屋

平成 21 年 1 月 27 日（火）於：大阪

平成 21 年 1 月 28 日（水）於：福岡

平成 21 年 2 月 2 日（月）於：東京

平成 21 年 2 月 5 日（木）於：広島

平成 21 年 2 月 9 日（月）於：札幌

平成 21 年 2 月 13 日（金）於：東京

講師：下出 政樹 氏（独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理試験センター）

林 佐利 氏（独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理試験センター）

宇野 和彦 氏（株式会社スキルメイト）

木田 徳彦 氏（株式会社インフォテック・サーブ）

齋藤 実 氏（株式会社ネクストエデュケーションシンク）

渡邊 洋治 氏（株式会社ネクストエデュケーションシンク）

捧 智哉 氏（株式会社ネクストエデュケーションシンク）

林 義樹 氏（富士通エフ・オー・エム）

片山 慶人 氏（株式会社ライトニング）

人材育成委員会 実施内容

第1回人材育成委員会 配布資料抜粋

CSAJ人材育成委員会
平成20年度活動方針



2008年9月9日
人材育成委員会委員長
宇野和彦

はじめに

CSAJ人材育成委員会は本年度も協会メンバーの人材育成に焦点をあてて、実質的な活動の展開を計画しています。この人材育成委員会を運営するのはCSAJ理事担当制に基づいて次の理事が担当します。

宇野 和彦（スキルメイト）
尾上卓太郎（ニスコム）
中原 凡子（セルバン）

よろしくお願いいたします。

本年度活動方針

人材育成委員会の活動は次の3つの活動を中心に行います

1. ITSS推進運動
2. ITパスポート推進
3. 産学協同によるIT人材育成の支援



この3つの活動を選んだ背景について説明します。

我が国のIT人材育成に関する現状と課題

産業としての競争力の欠如

- ・ 作り込みによるシステムの受託開発が中心であり、ソフトウェアの共通部分の再利用が十分に行われていないこと等から、欧米と比較して、産業としての生産性・収益性が低い。
- ・ IT投資需要が需要に増大する中で、人材不足の深刻化等により長期間労働が常態化しており、勤務環境が厳しい。
- ・ 学生から見た場合に、新たなフロンティアを開拓する発展性のある業務が少ない。

企業内における人材育成

- ・ 人月主義主義のもとで、高度な技術を有する技術者に対する適切な処遇が行われていない。
- ・ 多くの企業において、業務に必要な知識やスキルが体系化、共通化されておらず、個人レベルの習熟にとどまっている。
- ・ 技術者個人にとって将来的なキャリアパスが見えない。

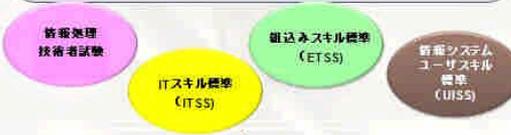
高等教育等における実践的な教育の不足

- ・ システム開発経験のある教員が少なく、また、実践的な教育を行う上での適切なカリキュラム・教材が不足している。
- ・ 実践的なシステム開発のノウハウを修得するための学びの場が少ない。
- ・ 企業から教員を招聘しようとしても、学内の慣習等により実行が困難である。

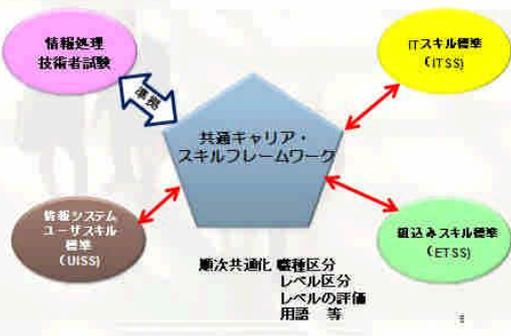
我が国のIT人材育成に関する現状と課題

共通する評価方法の欠如-情報処理技術者試験とスキル標準-

- ・ 情報処理技術者試験はこれまでに150万人の合格者を輩出している。スキル標準は大手IT企業を中心に普及が進んでおり、いずれも基本的な人材育成メカニズムとして機能している。
- ・ 情報処理技術者試験もスキル標準も人材像の抽出やこれの整合性については十分ではない。
- ・ 情報処理技術者試験は試験区分の見直しや試験回数増加等の制度改革を行っているが、ITスキル標準（2002年策定）との整合性を求める声が多い。
- ・ ITスキル標準は大手企業では普及してきたものの、企業ごとによる活用策や準拠の程度が異なるなどの不整合が顕在化している。
- ・ そのほか発表された組込みスキル標準（2005年策定）と情報システムユーザスキル標準（2006年策定）との間で、レベル評価方法や用語等の整合性確保の要請が生じている。



客観性の高い人材評価メカニズムの構築



共通キャリア・スキルフレームワーク

順次共通化 職種区分
レベル区分
レベルの評価
用語等

1. ITSS 推進運動

情報システムユーザースキル標準 (UISS) の利用状況

- UISSを少なくとも知っている企業は7割以上あるが、実際に利用している企業は少ない。
- IT企業におけるUISSの活用率は、1.7%という結果となった。

UISSの認知度は高い

企業規模別

企業規模	知っている	知っているが利用していない	利用している
1000名以上 (N=41)	85%	20%	3%
300~1000名未満 (N=65)	75%	25%	3%
100~300名未満 (N=172)	67%	24%	3%
100名未満 (N=72)	58%	15%	3%

UISSの認知度は高いが、実際に利用している企業は少ない。

1. ITSS 推進運動

ITスキル標準に基づく職種分布

- 下図は、今回の調査と、ITスキル研究フォーラム (SRF: 日経BP社/日経BPマーケティング社/ザ・ネット)により実施されている「スキル実態調査」の結果 (2007年度最新) を比較したものである。
- 多少の差が見られる職種はあるが、職種分布の状況は概ね一致している。

職種別

職種	今回の調査 (%)	スキル実態調査 (%)
システムエンジニア	35%	35%
プログラマー	25%	25%
ネットワークエンジニア	15%	15%
ITストラテジスト	10%	10%
ITインフラエンジニア	5%	5%
その他	10%	10%

1. ITSS 推進運動

ITスキル標準に基づく人材のレベル分布

- 下図は、調査対象人材のレベル分布を、最新の「スキル実態調査」と比較したものである。
- 今回の調査結果では、「スキル実態調査」の結果と比較して、レベルが高めに集まる結果となった。

企業規模別

企業規模	LV1	LV2	LV3	LV4	LV5
1000名以上 (N=41)	10%	20%	30%	30%	10%
300~1000名未満 (N=65)	15%	25%	35%	25%	10%
100~300名未満 (N=172)	20%	30%	35%	15%	10%
100名未満 (N=72)	25%	35%	30%	10%	10%

1. ITSS 推進運動

企業規模別-ITSSレベル分布

- 下図は、企業規模別に、人材のレベルの分布を示したものである。
- 大企業ほどレベルの高い人材が多い、とは言えない結果となった。
- 100名未満の小規模の企業において、レベル6-7の人材の割合が高いが、これは、アンケートの記入方法によるものとも考えられる。(100名未満の企業において、1名と記入すれば、割合としては、1%以上の数値になる。)

企業規模別

企業規模	LV2-1	LV3	LV4-5	LV6-7
1000名以上 (N=41)	34%	31%	26%	10%
300~1000名未満 (N=65)	42%	31%	20%	10%
100~300名未満 (N=172)	40%	34%	21%	10%
100名未満 (N=72)	23%	33%	30%	15%

1. ITSS 推進運動

人材の「量」と「質」に対する満足感

人材の量-質とも不足!!

- 以下は、自社の人材の「量」と「質」に対する満足感を、それぞれ得た意図の結果。
- 「量」「質」どちらについても、「不足している」と答えた企業が、全体の約9割にも上っている。

人材の「量」

満足度	割合
満足している	26%
やや不足している	53%
不足している	11%

人材の「質」

満足度	割合
満足している	23%
やや不足している	57%
不足している	10%

1. ITSS 推進運動

企業規模による満足度の違い

- 下図は、前頁の満足度を企業規模別に見たもの、全体的に、企業規模が小さくなるほど、満足感が低い。

企業規模別

企業規模	満足している	やや不足している	不足している
1000名以上 (N=41)	34%	33%	12%
300~1000名未満 (N=65)	28%	41%	12%
100~300名未満 (N=172)	20%	39%	17%
100名未満 (N=72)	16%	30%	11%

1. ITSS 推進運動

人材育成に関する課題

- 「人材育成に関する課題」を複数回答する設問の結果は、以下のようになった。
- 全体の結果 (左下図) と、企業規模別の結果 (右下図) には、明確な差が見られる。
- 大企業では、「育成の費用対効果の阻害」が課題となっている。対する中小企業では、「育成の費用そのもの」が「育成人材の不足」が課題とされている。
- 100名未満の企業では、「人材を育成しても途中で辞めてしまう」との回答割合が、他よりも高い。

企業規模別

課題	1000名以上 (N=41)	300~1000名未満 (N=65)	100~300名未満 (N=172)	100名未満 (N=72)
育成の費用対効果の阻害	10%	15%	20%	30%
育成の費用そのもの	5%	10%	15%	25%
育成人材の不足	15%	20%	25%	35%
途中で辞めてしまう	10%	15%	20%	30%

1. ITSS 推進運動

特に重点的に確保・育成を図りたい職種

職種はプロジェクトマネジメント

- 今後、特に重点的に確保・育成を図りたい職種として最も回答が多かったのは、PM、APC、ITSがそれに続いている。
- CONS (コンサルタント) を要する企業も多い。
- この点も、企業規模によって、明確な差が見られる結果となった。

企業規模別

職種	1000名以上 (N=41)	300~1000名未満 (N=65)	100~300名未満 (N=172)	100名未満 (N=72)
プロジェクトマネジメント	15%	20%	25%	30%
PM	10%	15%	20%	25%
APC	5%	10%	15%	20%
ITS	5%	10%	15%	20%

1. ITSS推進運動

職種別・業も重点を置く確保・育成の手帳

↓ 下図は、前頁の職種について、その確保・育成の手段を伝える設問の結果、SWDのAPISは、最も採用への期待が高い。

職種	採用	育成	期待	その他
システムエンジニア	31%	23%	23%	23%
ネットワークエンジニア	25%	23%	23%	23%
システム運用エンジニア	25%	23%	23%	23%
プログラマー	25%	23%	23%	23%
システムインテグレーションエンジニア	25%	23%	23%	23%
システムエンジニア(システム)	25%	23%	23%	23%
システムエンジニア(ネットワーク)	25%	23%	23%	23%
システムエンジニア(システム)	25%	23%	23%	23%
システムエンジニア(ネットワーク)	25%	23%	23%	23%
システムエンジニア(システム)	25%	23%	23%	23%
システムエンジニア(ネットワーク)	25%	23%	23%	23%

1. ITSS推進運動

「IT人材市場動向予備調査結果」を整理すると

- ITスキル標準の利用については採用は3割であるが今後導入予定を合わせると83%の企業がITスキル標準を人材育成に利用しようとしている
- ITスキル標準に基づく人材レベルでは1～4まではほぼ同じような割合であり、高度IT人材(レベル4・5)は必ずしも大企業に多いとは言えない
- 多くに企業が人材の「質」と「量」に不足と感じている
- 人材育成の課題は大企業では「育成の費用対効果の明確化」で、中小企業では「育成の費用そのもの」と「指導人材の不足」である
- 今後最も重点を置く確保・育成の手段としては「新卒採用」や「中途採用」などが焦点となっている



これらの結果を踏まえて、人材育成委員会はITSS推進運動を展開します

1. ITSS推進運動

ITSS Ver 3の発表(2008年3月31日)

ITSSの変更

- 2002年12月 ITSSが発表される(結果としてVer.1)
- 2006年4月 ITSS Ver.2が発表
- 2006年10月 ITSS2006が発表
- 2007年10月 ITSS2007の発表が延期
- 2008年3月 ITSS Ver.3が発表
- 2008年10月 ITSS2008が発表予定

Verの変更はITSSの体系的な加定がある場合年度別のモデルは年度内の情報の更新を反映

1. ITSS推進運動

ITSS Ver 3の発表(2008年3月31日)

【ITスキル標準V3改訂の主要なポイント】

- レベル1, 2の職種の共通化
 - レベル1, 2の職種については、各専門分野の基礎的知識を共通化し、指標を統一
- レベル評価手段として情報処理技術者試験の活用
 - 客観的な人材評価メカニズムの構築を可能にするため、ITスキル標準のレベル1～3の評価手段として情報処理技術者試験の位置づけを明確化
- 専門分野の変更
 - プロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案を受け、コンサルタント、ITスペシャリスト、アプリケーションスペシャリスト職種で専門分野を見直し

1. ITSS推進運動

ITSS Ver 3の発表(2008年3月31日)

○レベル1, 2の職種の共通化

- レベル1, 2の職種については、各専門分野の基礎的知識を共通化し、指標を統一

○ITスキル標準V3のキャリアパスマトリクス

職種	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10
システムエンジニア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ネットワークエンジニア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
システム運用エンジニア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プログラマー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
システムインテグレーションエンジニア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
システムエンジニア(システム)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
システムエンジニア(ネットワーク)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
システムエンジニア(システム)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
システムエンジニア(ネットワーク)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

1. ITSS推進運動

ITSS Ver 3の発表(2008年3月31日)

○レベル評価手段として情報処理技術者試験の活用

- 客観的な人材評価メカニズムの構築を可能にするため、ITスキル標準のレベル1～3の評価手段として情報処理技術者試験の位置づけを明確化

○ITスキル標準に対応する情報処理技術者試験の活用

レベル	ITスキル標準に対応する情報処理技術者試験	各情報処理技術者試験が対象とする人材像(業務と役割)
レベル3	応用情報技術者試験(AP)	基本職務立案又はITソリューション・製品・サービスを実施する業務に従事し、 協力 で役割を果たす。
レベル2	基本情報技術者試験(FE)	基本職務立案又はITソリューション・製品・サービスを実施する業務に従事し、 上位者の指導の下 に役割を果たす。
レベル1	ITパスポート試験(IP)	職業人として働くべき、情報技術に関する共通的な 基礎知識を習得した者 であり、担当する業務に対して情報技術を活用し、活動を行う。

1. ITSS推進運動

ITSS Ver 3の発表(2008年3月31日)

○専門分野の変更

- プロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案を受け、コンサルタント、ITスペシャリスト、アプリケーションスペシャリスト職種で専門分野を見直し

職種	改訂内容
コンサルタント	専門分野「BT」「IT」を見直し、「インダストリ」「ビジネスアプリケーション」へ再構成 専門分野「パッケージ」廃止
ITスペシャリスト	専門分野「分散コンピューティング」の廃止 専門分野「アプリケーション共通基盤」の新設
アプリケーションスペシャリスト	専門分野「業務パッケージ」の内容見直し

2. ITパスポート推進

平成21年春から実施される新情報処理技術者試験制度のなかで注目されるITパスポートの認知・取得普及活動を推進します。

ITパスポートの普及には2つの側面があります。

1つは受験者側へのアプローチで、試験受験の動機です。そしてもう一つは受入れ側の評価・認知促進の運動です。ITパスポートの設立の意義や主旨を理解して、その資格取得者を正当に評価できる受け入れ態勢が重要であると考え、企業側に理解を求め、同意を得る運動を展開する。最終的には、CSAJ加盟企業はITパスポート取得者の入社を歓迎することを表明できるようにしたい。



2. ITパスポート推進



取得する人



IPPA 情報処理技術者試験
広報活動の展開



ITパスポートの対象人物像が「職業人として共通に備えておくべき情報技能に関する基礎的知識を習得したものであることから、主催者IPAが大学卒業生すべてがITパスポートを取得して職業人となることを目標としている。その対象者は大学卒業生75万人です。現在の応募者が15万人ですから5倍の応募者を期待しています。

大学卒業生
75万人が取得

43

2. ITパスポート推進



取得する人



IPPA 情報処理技術者試験
広報活動の展開



一方で企業側でのITパスポートに対する認知度を高めることも重要になる。ITパスポート資格取得者の採用をどのように推進するのか。また同時に社内人材育成の手段としてのITパスポートの利用への推進も重要なテーマとなる

ITパスポート資格者の待遇を検討することは、結果としてITSS体系の構築の推進となる

44

2. ITパスポート推進

- ITパスポートは今後の職業人の必須アイテムになるのか
- ITスキル標準などのスキル体系を構築する際の重要なツールとして情報処理技術者試験は利用できる
- ITパスポートを取得する側、その資格を評価する側にその有効性を知らしめる広報・認知促進活動が重要になる
- 企業向けにITパスポートの認知度を高める施策とは

これが人材育成委員会の活動のテーマです

41

3. 産学共同によるIT人材育成支援

高度IT人材の早期育成を図る上で重要となる高等教育機関における実践的なIT教育の拡充・普及を促進するために産学共同で実践的な教育訓練を支援する。

昨年まで山梨学院大学において、CSAJのメンバーによる授業や大学生の企業訪問を実施したが、今年度はインターン制度の活用や熟練者による実践的な授業の開催を計画する。同時にITパスポート取得の推進運動も連携して行う。ソフトウェア業界を魅力ある業界であると理解してもらえようような施策を検討・実施する



42

3. 産学共同によるIT人材育成支援

今年度新卒採用の目標達成度

下記は、今年度の新卒採用の目標達成度等々の他、他の結果、最も多い企業は、「目標と一致だが、目標を下回った」と回答する企業も増加しており、昨今の採用情勢の厳しさが見える。

目標達成度は、企業情報によって差が表れる。次年度では、目標と一致している企業が多いが、中小企業では、目標を下回っている企業の割合が高い。

企業規模別

企業規模	達成	目標と一致	目標を下回る	目標を大幅に下回る
1000名以上	45%	35%	15%	5%
100-1000名未満	35%	30%	25%	10%
100名未満	25%	20%	40%	15%

業種別

業種	達成	目標と一致	目標を下回る	目標を大幅に下回る
製造業	40%	30%	20%	10%
情報通信業	50%	40%	10%	0%
サービス業	30%	25%	35%	10%

43

3. 産学共同によるIT人材育成支援

新卒採用人材に対する満足度

採用した新卒人材に対して、「満足している」と回答した企業は半数程度、約5割は、「不満」と答えている。

企業規模によって、新卒人材に対する満足度は差が表れ、大企業ほど、「満足」と答えている割合が高い。

企業規模別

企業規模	満足	不満
1000名以上	55%	45%
100-1000名未満	45%	55%
100名未満	35%	65%

業種別

業種	満足	不満
製造業	45%	55%
情報通信業	60%	40%
サービス業	35%	65%



44

3. 産学共同によるIT人材育成支援

重点的に採用したい学生

今回のアンケートでは、新卒人材の学歴や専攻、「理系」「情報系」「文系」、「院卒」「学部卒」「その他学校卒」に分け、今後、重点的に採用したい人材を明らかにした。

全体的に、「情報系」の学生に対するニーズは、他専攻の学生より高い。

企業規模により、「院卒」「学部卒」「その他学校卒」に対するニーズの違いが見られる。

学歴別

学歴	ニーズが高い	ニーズが低い
院卒	25%	75%
学部卒	40%	60%
その他学校卒	30%	70%

企業規模別

企業規模	院卒	学部卒	その他学校卒
1000名以上	35%	45%	20%
100-1000名未満	25%	55%	20%
100名未満	15%	65%	20%

45

3. 産学共同によるIT人材育成支援

新卒採用に関する課題

新卒採用に関する課題として、最も回答が多く挙げられたのは、「重要の仕様のインジが低い」、特に、大企業において、この回答割合が高い。

技術人材の供給が足りない、中小企業において、回答割合が多くなっている。

企業規模別

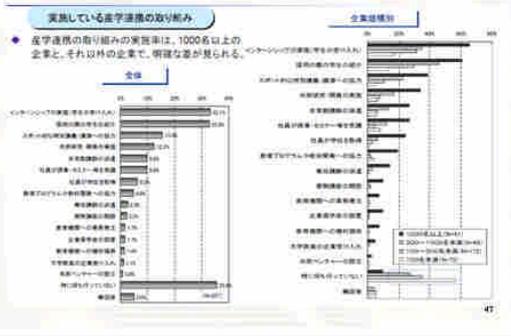
企業規模	重要仕様のインジが低い	技術人材の供給が足りない
1000名以上	65%	15%
100-1000名未満	55%	25%
100名未満	45%	35%

業種別

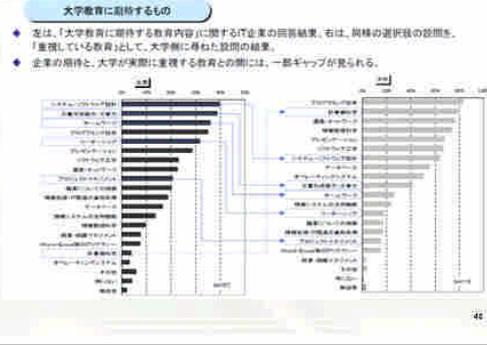
業種	重要仕様のインジが低い	技術人材の供給が足りない
製造業	55%	25%
情報通信業	75%	15%
サービス業	45%	35%

46

3. 産学共同によるIT人材育成支援



3. 産学共同によるIT人材育成支援



3. 産学共同によるIT人材育成支援

- 今後のIT系人材確保には、IT人材供給側との緊密な関係構築が重要になる。
- IT業界が必ずしも動きにくいというイメージを払拭する必要がある。どのような施策が学生には有効なのかを考える必要である。
- 業界が必要な人材像と学校側が育成している人材像との間のギャップを解消し、理想的な人材育成をできるように学校側との協業が必要
- 業界の現場での知識やスキルを大学生に直接指導できる機会を設けることで業界への関心を高めたい

具体的な施策を委員会で検討し、実践します

委員会活動スケジュール

委員会は毎月一回開催の予定です

月	主要議題	活動内容
9月	第一回 委員会の本年活動の目的の確認	①ITパスポートセミナー-IPAより ②今後の活動内容の確認 ITSS関連-ITSS体系化の実証実験等への参加 ③講演を聴く ITパスポート-ITパスポートの業界内での認知度を上げるための活動
10月	第二回 共通キャリア・スキルフレームワークの説明会	①IPAが9月に発表する共通キャリア・スキルフレームワークの内容説明、その利用法について ②スキル診断システムの紹介 ③IPAのITパスポート推進事業について
11月	第三回 モデル企業における実証実験について ITパスポートの市場認知度の確認	①ITSS2008モデルの発表を受けて、共通キャリア・スキルフレームワークの社内評価体制構築の実践について検討 ②ITパスポートの業界内の評価と大学側での取組について調査

委員会活動スケジュール②

委員会は毎月一回開催の予定です

月	主要議題	活動内容
12月	第四回 ITパスポート試験対策問題	ITパスポート試験対策問題の実答と企業側評価を調査
1月	第五回 モデル企業における実証実験の進捗報告	ITSS体系導入企業の進捗状況を報告 ITSS導入の際の問題点や考慮点について検討
2月	第六回 ITSSを企業内評価システムとして採用する際の考慮点やチェックポイント	①ITSS体系導入のチェックポイントの確認 ②ITパスポートの企業内利用について
3月	第七回 ITSS体系導入モデル企業およびITパスポート推進運動状況報告	①ITSS体系導入モデル企業の進捗状況を報告 ②ITパスポート推進運動の進捗状況を報告
4月	第八回 平成20年度活動総括	

人材育成関連セミナー

人材育成に関する様々なテーマでのセミナーを開催します。最近の人材育成での大きなテーマは次のような項目があります。

- ①ロジカルシンキング
- ②ロジカルプレゼンテーション
- ③モチベーションとリーダーシップ
- ④タレントマネジメント
- ⑤チームビルディング
- ⑥ファシリテーション



希望に応じたテーマでの開催しますので、希望するテーマを事務局までご連絡ください

IPAへの要望事項

本年度の委員会活動を行うに際して、下記のサポートを要望いたします。

1. ITパスポート資格試験の紹介チラシや学生にも分かりやすいリーフレットのようなものを制作（提供）される予定はありますか。現在は「情報処理技術者試験」の両面チラシがありますが、ITパスポートを取り上げたもので体系図と試験の概要がわかりやすく記述されたものがあれば、企業への理解を得やすいと考えます。
2. 大学や短大、又は企業向け説明会等にIPA事務局の方のご出席をお願いできますか。
3. ITSSに関連した教育関連のコミッティにCSAJからの委員派遣は可能でしょうか

CSAJ人材育成委員会

皆さんの積極的な参加をお待ちしています



第2回人材育成委員会 配布資料抜粋

CSAJ人材育成委員会



2008年10月7日

CSAJ人材育成委員会10月度

本日の議題

1. ITSSベースの人材育成体系構築のために
「共通キャリア・スキルフレームワーク」の利用方法について
2. スキル診断システムのご紹介
- システム・テクノロジー・アイ様
- 日経BPマーケティング様
- 富士通ラーニングメディア様
- ネクストエデュケーションシンク様
3. 人材育成の情報交換
4. その他

ITSSベースの人材育成体系構築のために

「共通キャリア・スキルフレームワーク」の利用方法について

高度人材	スーパーハイ	レベル7	国内のハイエンドプレイヤーかつ世界に通用するプレイヤー	成果(実績)ベース ↓ 業務経験や面談等	各企業で判断 特徴的な検査試験での判定はレベル4まで	高度試験	
	ハイ	レベル6	国内のハイエンドプレイヤー	試験+業務経験により判断		ミドル試験	
		レベル5	企業内のハイエンドプレイヤー			ミドル試験	
	ミドル	レベル4	高度な知識・技能	応用的知識・技能		スキル(能力)ベース ↓ 試験の可否	基礎試験
		レベル3	応用的知識・技能	基本的知識・技能		試験の可否	基礎試験
エントリー	レベル2	基本的知識・技能	基礎知識		基礎試験		
	レベル1	最低限求められる基礎知識			基礎試験		

共通キャリア・スキルフレームワークのレベル定義

レベル	定義
レベル7	「高度な知識・スキルを有する世界に通用するハイエンドプレイヤー」企業全体から見ても先達的なサービスの提供や事業拡張、市場開拓などをリードした経験と実績を有し、世界レベルでも高く認知されるレベル。
レベル6	「高度な知識・スキルを有する国内のハイエンドプレイヤー」社内だけでなく業界においても、プロフェッショナルとしての経験と実績を有し、社内外で広く認知されるレベル。
レベル5	「高度な知識・スキルを有する企業内のハイエンドプレイヤー」プロフェッショナルとして重要な貢献と実績を有し、社内をリードできる。
レベル4	高度な知識・スキルを有し、プロフェッショナルとして業務を遂行でき、貢献や実績に基づいて賞与表彰される。またプロフェッショナルとして求められる経験と試験合格し、業務遂行に活用できる。
レベル3	応用的知識・スキルを有し、要求された作業についてすべて能力を有する。
レベル2	基本的知識・スキルを有し、一定程度の量産性又は要求された作業について、その一環を能力で遂行できる。
レベル1	職務上の基礎的知識を有し、要求された作業について、指導を受けて遂行できる。

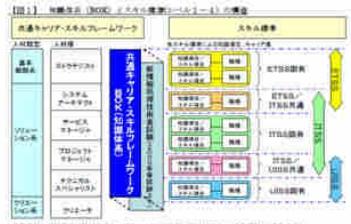
共通キャリア・スキルフレームワークに基づくレベル判定

- ① レベル1～3については、知識及びスキルについての判定は、能力ベースで行うこととし、各レベルに応じた情報処理技術者試験への合格を、当該レベルにおけるエントリー基準として判断する(各レベルで期待される必要な能力レベル「知識及びスキルの習得」に到達しているものと見なす)。
- ② レベル4については、情報処理技術者試験の結果のほか、業務履歴の確認と面接等を併用し経験の実績の確認等、各スキル標準の評価基準によって判断する。
- ③ レベル5以上については、プロフェッショナルとしての貢献等も含めて経験と実績を確認するとともに、上位のレベル又は同じレベルのピアレビュー等を通じて各スキル標準の評価基準によって判断する。

スキルと知識体系

知識体系(BOK)

共通キャリア・スキルフレームワークのレベル1からレベル4に必要とされる知識に關しては、我が国では1989年から実施されている情報処理技術者試験の知識項目が最も網羅的かつ体系的に整理されていたことから、これをベースとした共通のBOK(Body of Knowledge)として体系化することとした。これにより図1のように各スキル標準のキャリア毎に必要な知識項目を共通のBOKを通して参照することが可能となる。



ITスキル標準とは？

ものさしとしてのスキル標準
構成のアプローチ

スキル標準においては、各種ITサービスの提供に必要なスキルを要素分解し、客観的な観察可能性や、教育・訓練での活用可能性の観点から整理するとのアプローチを行っている。具体的には、

1. ITサービスを「職種／専門分野」として区分
2. 職種／専門分野毎に、スキルを客観的に観察する指標として、経験・実績を記述した「達成度指標」を設定
3. 職種／専門分野に必要なスキルを教育・訓練に活用する観点から要素分解した「スキル項目」を整理し、スキル項目毎に修熟の度合いを示す「スキル熟達度」と必要な「知識項目」を展開
4. 以上に加えて、これらの全体像を一覧性をもって提示するものとして「スキル・フレームワーク」を作成

スキル診断システムとITパスポート試験

- スキル診断システムで診断されるのは、スキルレベルと同時に、ITSSでの評価に必要な「スキル熟達度」や「達成度指標」である。
- 一方ITパスポートでは、能力レベル(知識及びスキルの習得)を判定する。
- つまり、企業にとって社内評価の際の重要な要素としてはITSSで定義しているような「スキル熟達度」や「達成度指標」も含まれる。ITパスポート資格取得だけでなく社内評価を行うのではなく、スキル診断システムでの診断結果も社内評価として、採用することを推奨します。

次回の人材育成委員会

下記の要領で開催します。

日時:11月12日(水曜日)13:00～

場所:CSAJ会議室

議題:

- ・ITパスポート試験広報事業について
- ・ITパスポート試験対策について
 - 対策講座の紹介・Eラーニングの紹介
 - P検の活用に関して
- ・ITSS導入実証実験に関して
- ・IT人材育成に関する情報交換
- ・その他



第3回人材育成委員会 配布資料抜粋

CSAJ人材育成委員会
11月度委員会



2008年11月12日
人材育成委員会委員長
宇野和彦

はじめに

CSAJ人材育成委員会は本年度も協会メンバーの人材育成に焦点をあてて、実質的な活動の展開を計画しています。第三回目に参加されているメンバーを紹介します。

自己紹介をお願いします。

- ・氏名
- ・会社名
- ・所属部門
- ・委員会に参加されている目的
- ・特に知ってもらいたいこと 他

本日の議題



議題

- ・ITパスポート試験について
 - IPAの応募資料を配布
 - 共通キャリア・スキルフレームワーク第一版発表
- ・ITパスポート試験対策について
 - 対策講座の紹介・Eラーニングの紹介
 - P模の活用に関して
 - ・パソコン検定試験とITパスポートの位置関係について
- ・ITSS導入に関して
 - ITSSV3 2008が発表
 - 本年度導入実証実験の企業の発表と今後の活動内容について
 - 期待される効果について
- ・IT人材育成に関する情報交換
- ・その他

ITパスポート試験について

- ・ITパスポート試験の認知度をあげるために・・・
- ・パンフレットとポスター
 - IPAはITパスポートを紹介するパンフレットとポスターを作成
 - 11月20日に完成し、全国の関係部門へ配布の予定
 - CSAJも必要部数を確保(必要の方は事務局へ・・・20日以降)
- ・ITパスポート紹介セミナー
 - ITパスポートを紹介するセミナーを東京地区で12月初旬開催予定(企業向けのため、CSAJの協力要請あり)
 - 専門学校向け説明会は12月6日日本工学院専門学校で開催
 - 今後各地で紹介セミナーを企画されて場合、IPAより講師の派遣は可能(CSAJ経由で依頼します)

ITパスポート試験について

- ・「共通キャリア・スキルフレームワーク」第一版公開
 - ITパスポートのスキルレベルの視域となる「共通キャリア・スキルフレームワーク」(18頁)が公表された。10月21日
 - 共通キャリア・スキルフレームワークの背景、目的、構成などについて記述されている
 - 共通キャリア・スキルフレームワークと3つのスキル標準との関係も解説あり
 - そして、情報処理技術者試験との関係や、今後の方針も

「共通キャリア・スキルフレームワーク」

今回の特徴としては、従来の3つのスキル標準と情報処理技術者試験制度との関係について「準拠」という表現であったが、なにが準拠するのかが明確になっている。

知識とスキルについて下記のように定義している

知識：

知識は大きく3つの分野に区別できると考えられる。すなわち、

(A) コンピュータ言語やアルゴリズム、システム設計・開発といったテクノロジー系知識、

(B) 開発や運用に関わるマネジメント系知識及び

(C) ビジネス(インダストリ)知識や製品知識あるいはコンプライアンスや関連法令知識や経営戦略的知識等のストラテジ系知識である。

これらの知識は、学習することによって一定の範囲で身に付くものであるが、それが直ちにスキルに直結して成果が発揮されるものではない。**知識はスキルを発揮するために必要な要素と考えられる。**

「共通キャリア・スキルフレームワーク」

さらにスキルについては

スキル：

これに対し、スキルは、「知識」を活用して、実際のプロジェクト等の経験を重ねることによって獲得されるものである。したがって、スキルを獲得するためにはプロジェクトに参加し、実践を重ねていくことが必要である。スキルは、技術的スキルと、経験を重ねることによって得られるチームの取りまとの能力や、ステークホルダ間の調整能力といった非技術的スキル(ヒューマン系スキル)に区分することが可能である。より上位のレベルでは、非技術的スキルが占める割合が高くなってくると考えられる。ただし、上位レベルの人材においても、非技術的スキルばかりでなく、常に時代の技術変化や産業構造の変化等を踏まえ、不断の知識の獲得と実践によるスキルの研鑽が必要である。

「共通キャリア・スキルフレームワーク」

そして、さらに 知識体系(BOK:Body of Knowledge)というコンセプトが採用された

知識体系(BOK:Body of Knowledge)

共通キャリア・スキルフレームワークのレベル1からレベル4に必要とされる知識に関しては、共通のBOK(Body of Knowledge)として体系化することとした。これによって図1のようにな各スキル標準のキャリア毎に必要な知識項目を共通のBOKを通して参照することが可能となる。

第4回人材育成委員会 配布資料抜粋

CSAJ人材育成委員会
12月度委員会



2008年12月4日
人材育成委員会委員長
宇野和彦

本日の議題

議題

- ITパスポート試験について
 - IPAが広報資料を配布（パンフレット、ポスター）
 - IPAが企画している広報活動
 - CSAJとしての広報活動案
- ITパスポートを授業に取り入れる学校に関して
 - CSAJが提案して導入を検討している学校
 - その他で導入を検討している学校
- ITSS導入実証実感企業の現状に関して
 - ニスコム
 - システム・エグゼ
 - アールワークス
- 平成21年度予算についてとその狙い
 - 経済産業省
 - 文部科学省・特務省
- IT人材育成に関する情報交換



ITパスポート試験について

- ITパスポート試験の認知度をあげるために・・・
- パンフレットとポスター
 - IPAはITパスポートを紹介するパンフレットとポスターを作成
 - 11月20日に完成し、全国の関係部門へ配布
 - イメージキャラクターは「東北真珠」



http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00campaign/index.html

ITパスポート試験について

- IPA主催のITパスポート説明会は
 - 東京・大阪の2会場のみ。対象者は団体申し込み企業（団体申込で担当者向け）新試験制度セミナーの開催について
 - 東京での開催は11月28日終了済み
- 【日時】 平成20年12月8日（月） 15:30～17:30
- 【場所】 大阪駅前第一ビル 5F
- 〒598-0007 大阪市東区津島113丁目10-62
- 【日時】 平成20年11月28日（金） 14:00～18:00
- 【内容】
 - 開会挨拶（10分）
 - 川口 浩（情報処理技術者試験センター長）
 - 新試験制度における出題・配点について（50分） 堀 清典 氏（情報処理技術者試験委員）
 - 平成21年度新試験における団体経由申込みの概要について（20分） 藤村 有司（情報処理技術者試験センター 資格グループリーダー）
 - 質疑応答（情報処理技術者試験センターへの要望等）（30分） 堀 清典（情報処理技術者試験センター 企画グループ）

ITパスポート試験について

- ITパスポートの大学での取り組み
 - CSAJのメンバーは大学への取組をサポートしています
 - ITパスポートを来年の取組として決定した学校
 - 産業能率大学（自由が丘・伊勢崎市）
 - 大阪学院大学（大阪・枚田市）
 - 立命館大学（京都）
 - ITパスポートへの取組を検討中の学校
 - 聖学院大学（埼玉県真原）
 - 山梨学院大学（山梨・甲府市）
 - 帝京平成大学（池袋）

今後もITパスポートを課内・課外授業での取り組みをする学校が増える可能性が十分にありそうです。
学校側の取組が活性化されているので、受け入れ側、企業への広報活動の充実を図るべく活動を行います。

ITパスポート試験について

委員会参加のメンバーにお聞きします。

ITパスポート試験を含む新情報処理技術者試験制度をひろくCSAJのトップ層に理解と推進を喚起する施策について、どのように考えますか？



ITパスポート試験について

- CSAJ人材育成委員会主催のITパスポートセミナーを企画
- 開催場所：東京・大阪、名古屋・福岡・仙台の5か所
- 対象者：CSAJメンバー、大学関係者、協賛企業関係者など
- 募集人数：総計で1500人～2000人
- 開催時期：12月中旬から1月初旬
- セミナー内容：
 - 1) ITパスポート発生の背景（高度IT人材WGメンバー）
 - 2) 新試験制度と出題の概要について（IPAより説明員）
 - 3) ITパスポート対策講座（研修委員会）
 - 4) ITパスポートスキル診断（スキル診断会社）
 - 5) ITパスポートEラーニング（Eラーニング会社）
 - 6) ITパスポート講座構築サポート（講座サポート企業）
- 運営方法：
 - セミナーでは講師の提供が主体とし、セミナー会場の外では、個別に教材やスキル診断システムの提供を積極的に行い、多くにもITパスポートへの取組が可能な教材の提供を行う
 - 参加は無料としたが、会場費やDM代排出のために、参加企業からの協賛金を検討

情報処理技術者試験 新試験制度のプロファイル

- 共通キャリア・スキルフレームワークに基づく情報処理技術者試験の抜本的改正

項目	旧試験	新試験
試験科目	情報処理技術者試験（1級、2級、3級）	情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級）
試験内容	情報処理技術者試験（1級、2級、3級）	情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級）
試験形式	情報処理技術者試験（1級、2級、3級）	情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級）
試験実施	情報処理技術者試験（1級、2級、3級）	情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級） 情報処理技術者試験（1級、2級、3級）

ITパスポート試験について

- 【CSAJ人材育成委員会主催のITパスポートセミナー】
- CSAJのセミナーへの参加希望者を募集します
 - 開催：ITパスポート運動推進に関連する業種はすべて
 - ITパスポート講座開講教材
 - ITパスポートスキル診断システム（優良版と本格版）
 - ITパスポート集合研修
 - ITパスポートeラーニング
 - ITパスポート資格取得サポート会報（ポータルサイトの提供）
 - 参加資格：人材育成委員会参加メンバーを優先しますが、必要に応じて、メンバー以外の参加も検討
 - 参加申し込み先：ITパスポート普及推進コンソシアム 事務局 スキルメイド 宇野
 - 第一回打ち合わせ：12月12日（金曜日）16:00～ 場所は追って連絡します。

9

ITSS体系導入について

- 本年度導入実証実験の企業の発表と今後の活動内容について
今年度ITSS体系導入実証実験を行う企業は、
- ◎奥越中
 - 会社名：ニスコム株式会社
 - 対象人数：46名
 - 使用システム：株式会社ネクストエデュケーションシノク（ITSSレベルチェッカー）
 - 12月8日～12月25日コンサルタントによる面談・評価の実施
 - ◎奥館準備中
 - 会社名：株式会社システムエグゼ
 - 会社名：株式会社アールワークス

9

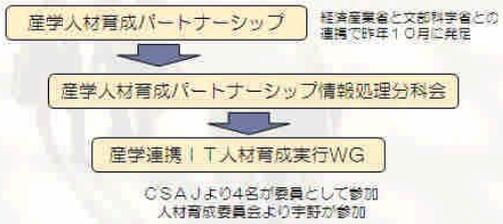
人材育成関連情報

- 第10回 ITスキル研究フォーラム セミナー
進化するITSS 人材育成のための活用法
～ITV3-2008）登壇とITSSをめぐる最新状況を紹介します。～
主催：ITスキル研究フォーラム
期日：2008年11月27日（木）13:20～16:30
会場：新潟県会館 1階 101大会議室（東京都千代田区平河町）
- 『高度ICT人材育成研究交流会』（総務省関連）
我が国における高度ICT人材の現状と今後の方向性に関する講演とPBL（Project Based Training）をはじめとする高度な教育の実践やその基盤となるEラーニングシステム等に関する事例研究
主催：株式会社教育情報情報研究所
期日：2008年11月26日10:30～16:50
会場：アルカディア市ヶ谷 階高の館

10

人材育成関連情報

高度IT人材育成推進体制の整備（ナショナルセンター的機能の強化）



11

資料3-3

「産学人材育成パートナーシップ」について ～産・学 双方向の対話と行動を実現する 大学教育 産学連携の枠組み作り～

平成19年10月
文部科学省・経済産業省

現状と課題

- 人材育成において、教育界が注力している点と産業界が教育界に期待している点とが必ずしも一致しているとは言い難い一方で、産業界は教育界の取組に目を向けていないなど、教育分野の産学連携は好循環を生んでいない。
- 加しさを増すグローバル化競争やイノベーション競争を勝ち抜く人材を育成するために、産・学双方による対話と行動の実現が早急に求められる。

＜産業界を捉えきれない教育界＞ 大学の人材育成について、産業界からは基礎学力の不足をはじめとした多くの問題点が指摘されているところ。「学部・学科」をあまり考慮していない。

＜教育界の取組を重視しない産業界＞ 地方、産業界は、人材採用にあたって「大学での成績」や「学部・学科」をあまり考慮していない。

産学連携推進に関する現状の課題

産業界側の課題	教育界側の課題
大学での成績を重視しない	基礎学力の不足
学部・学科をあまり考慮していない	産業界のニーズを捉えきれない
人材採用にあたって「大学での成績」や「学部・学科」をあまり考慮していない	産業界からの期待に応えられない

産学連携推進に関する項目（課題別）

項目	教育界側	産業界側
産学連携推進に関する取組	15.0%	15.0%

注：このアンケートは産業界と教育界の両方から実施された。回答は匿名で集計された。

注：このアンケートは産業界と教育界の両方から実施された。回答は匿名で集計された。

産学人材育成パートナーシップの強い目的

（背景）

- グローバル競争やイノベーション競争の激化及びIT化に伴う仕事の高度化に伴い、我が国産業界においては、これらの競争を勝ち抜くための人材育成が喫緊の課題。
- さらに、2007年問題等が通り、我が国を支えるモノ作り技術の継承が危ぶまれる中、若年層の離職に対する関心の創れ、早期離職の加速化が進んでおり、産業界を支える人材不足問題は、もはや一時的な競争も許されない状況。
- 地方、企業は、競争力強化の観点から高度人材を求め、人材育成における産学連携は必ずしも十分に実施されているとはいえない。
- このため、各大学が自らの特色を活かしつつ産業界のニーズを踏まえた人材育成の取組を実施するなど、大学界と産業界の間で、より幅広い連携協力関係を構築していくことが必要。

（これまでの取組の強み）

- 専門職大学院、長期インターンシップ研修等、改善の動きを見ることができたものの、就職者ポリューム全体で卒業生の質を一段と上げていく必要がある。
- 二企業と一研究室の対応はあるが、業界全体・学会全体に波及しない。
- 文科系・理産系の既存の支援プログラムは産学の「点と点」の協力を支援、成功ケースは散見されるが、「面」としての広がりが、浸透力を待たず。
- 産業界は、各分野で求められる学力ニーズを体系的な教育単位として大学サイドに申し立てていないため、教育現場でのカリキュラム調整に向けた努力が困難な状況。
- 大学の外部評価を推進する方向性が打ち出されているが、教育界における評価の根拠が十分でなく、どのような教育が望ましい教育なのか必ずしも明確にされていない。

「産学人材育成パートナーシップ」構想

3

産学人材育成パートナーシップの成果（イメージ）

- 近年の産業界を取り巻く様々な環境変化を踏まえ、社会ではどのような人材が必要とされるか、このような人材を育成するため、産業界と大学でどのような役割分担及び協力関係が可能なか。

《大学側に期待される取組例》

- 社会や経済の動向を踏まえた教育改革
 - 個別大学における取組
 - 中核となる大学院の連携による取組
 - 学内・産業界との協力的な連携の促進
- 教育の質の保証
 - 教員の教育能力の向上
 - 卒業認定の充実
 - 外部評価の充実
 - 企業との人事交流、教育現場への企業等の積極活用
 - 実践型教育の導入
 - 国際化・多様化の促進

《産業界側に期待される取組例》

- 人的・資金的な面で教育界への協力
 - 個別大学における取組
 - 実践型教育への協力
 - 講師派遣
 - インターンシップの質的向上
 - 責任講師の長・短大
- 教育界における人材育成への取組の評価と育成の経緯
 - 採用・研修への反映
 - 企業内での育成策の充実
 - 修士・博士など取得学位に際した人材活用

パートナーシップにおける活動を通じ、大学改革において提起されている課題を各分野のニーズを踏まえながら具体化していくとともに、産業界側からも必要なコメントを引き出し、お互いがWin-Winとなるような関係を開く。

4

産学人材育成パートナーシップの推進体制

<全体会議(第1回を10月3日に開催)>
 人材育成における産学連携に関する大枠の考え方について整理し、議論を行う分野を特定。

○産業界	日本経済連 経済連連合 日本経済連協等	経産省 副大臣 中経 代表取締役 中経 代表取締役
○教育界	国立大学協会 公立大学協会 私立大学協会	福山 学長 副学長 後々木 学長 副学長 本芝 学長 副学長
○分科会代表者	情報処理分科会 電気電子分科会 経営管理人材分科会 機械分科会 原子力分科会 化学分科会	川原 学長 東北大学大学院情報科学専攻 教授 奥川 学長 東北大学 先端科学技術研究センター 教授 渡辺 学長 法政大学 学長 学長 白鳥 学長 財団法人 日本機械学会 副会長 藤田 学長 財団法人 日本電子学会 副会長 理事長 坂本 学長 財団法人 日本機械学会 理事 村上 学長 財団法人 日本電子学会 理事 高橋 学長 財団法人 日本電子学会 理事

※ オブジェクトとして、日本学術会議の大場員一部委員長、経産省・文科省の局長が出席。

<分科会>
 各分野で必要とされる人材種の明確化、大学のプログラムへの反映、産業界による協力のあり方の具体化
 (関連産業界、関連大学界、文科省担当課、経産省担当課等、ほか)

化学 機械 材料 資源 **情報処理** 電気電子 原子力 経営管理人材分科会

CSAJ人材育成委員会

次回の人材育成委員会は1月 日の予定です
 詳細については追ってご連絡いたします

17

第5回人材育成委員会 配布資料抜粋

CSAJ人材育成委員会
2月度委員会



2009年2月17日
人材育成委員会委員長
宇野和彦

本日の議題

議題

- ITパスポート紹介セミナーについて
 - IPAと協業で全国6ヶ所での開催
 - セミナー参加申込者数は330名以上
- ITSS導入実証実感企業の現状に関して
 - ニスコム
 - システム・エグゼ
 - アールワークス
- 産学連携 IT人材育成実行WG
 - 経済産業省・文部科学省との協業によるプロジェクト
 - 産業界から教育界への教員派遣制度を平成21年度に
- 平成21年度人材育成委員会活動方針について
 - 推進の柱は本年度と同じ
 - 活動は4月からスタート
- IT人材育成に関する情報交換



ITパスポート紹介セミナーについて

- ITパスポート試験の認知度をあげるために・・・
- パンフレットとポスターを配布したが・・・
- CSAJの賞賛交歓会で来場したメンバー30名に無差別にITパスポートの認知度を確認した結果・・・
- 「ITパスポートを知っていたメンバーは 2名だけ」
- 「このパスポートでどこに行けるの?」という回答も



キャリアへの第一歩。
ITパスポート試験。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00campaign/index.html

ITパスポート紹介セミナーについて

- ITパスポート紹介セミナーをCSAJ主催で実施
- 全国6ヶ所での開催を計画
- 1月26日 名古屋地区 参加予定者数 30名 申込40名
- 1月27日 大阪地区 参加予定者数 70名 申込60名
- 1月28日 福岡地区 参加予定者数 40名 申込60名
- 2月 2日 東京地区 参加予定者数 60名 申込70名
- 2月 5日 広島地区 参加予定者数 30名 申込35名
- 2月 9日 札幌地区 参加予定者数 80名 申込75名
- 各地での申し込みが殺到し、名古屋地区、福岡地区、東京地区では申し込み受付を締め切る状況が発生
- 東京地区での反応があまりにも大きいので、2月13日追加開催決定(40名枠)したが、すぐに満員

ITパスポート紹介セミナーについて

申込受付のサイトを作成した



ITパスポートセミナー紹介

社会人になる前に
必要なスキルは持っていますか?

STOP

ITパスポート紹介セミナーについて

セミナーの内容

- ITパスポート誕生の背景 CSAJ人材育成委員会 宇野委員長
- ITパスポート試験の概要 IPA企画グループ 下出リーダー
- ITパスポート試験対策用、教材について インフォテックワーブ 木田取締役
- ITパスポートスキル診断システム ネットエデュケーションシンク 取締役社長
- ITパスポートeラーニング紹介 富士通FOM 林課長
- ITパスポートポータルサイト ライトニング 片山マネージャー



ITパスポート紹介セミナーについて

東京地区2月2日のアンケート結果

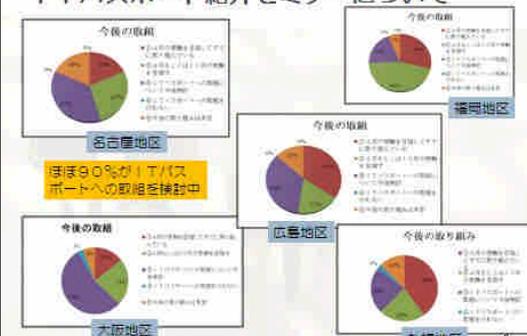


今後の取組

- ※ITパスポートの認知度を高めるために、IPAと協業で全国6ヶ所での開催を計画
- ※ITパスポート試験の概要、試験対策用、教材について
- ※ITパスポートスキル診断システム
- ※ITパスポートeラーニング紹介
- ※ITパスポートポータルサイトの構築

ITパスポート紹介セミナーについて

今後の取組



名古屋地区

ほぼ90%がITパスポートへの取組を検討中

福岡地区

広島地区

大阪地区

札幌地区

ITパスポート紹介セミナーについて

今回のセミナーのアンケートから次のような傾向が見えます。

1. ITパスポートへの関心はある程度高い
2. でも情報不足を受験者は感じている
3. どのような試験対策が望ましいのかを模索中
4. 初級シスアドの講師も受験を検討中
5. パソコン教室が今後のビジネスとして検討中
6. 大学、短大、専門学校での取り組みはかなり進んでいるが、高等学校での取り組みを始まっている
7. 企業における資格としての取り組みは不透明

9

ITパスポート紹介セミナーについて

今後のフォローが重要な課題です。

ITパスポート試験の第一回目の開催される4月19日のどの程度の受験者が応募し、どの程度の合格率が出るのかが注目されます。

その結果によって、ITパスポートの認知度がある程度見えてくる



10

ITSS体系導入について

本年度導入実績発表の企業と今後の活動内容について
今年度ITSS体系導入実績発表を行う企業は・・・

◎実施中

◆ 会社名：ニスコム株式会社

対象人数：46名

使用システム：株式会社ネクストエデュケーションシソク

(ITSSレベルチェッカー)

12月8日～12月25日コンサルタントによる面談・評価の実施

現在会社としての取組を検討中

◆ 会社名：株式会社アールワークス

対象人数：5名

使用システム：株式会社ネクストエデュケーションシソク

(ITSSレベルチェッカー)

2月19日～24日コンサルタントによる面談・評価の実施

◎実施準備中

会社名：株式会社システムエグゼ

11

資料3-3

「産学人材育成パートナーシップ」について ～産・学 双方の対話と行動を実現する 大学教育 産学連携の枠組み作り～

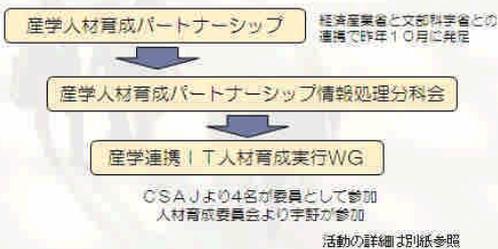
平成19年10月

文部科学省・経済産業省

1

人材育成関連情報

高度IT人材育成推進体制の整備（ナショナルセンター的機能の強化）



13

産学連携IT人材育成実行WG

・ 4つのタスクフォース

① 教員強化TF

教員の紹介：教員となる優秀な実務者の大学への紹介
FD実施：教員研修実務者へのトレーニング（集中講義型研修等）
教員サポート：大学教育における講義内容の体系化・教育手法等

② 教材・カリキュラムTF

育成強化ターゲットに対応した教材・カリキュラム開発
（ITSSレベル1～4；文理系の一般教育、理系専門教育（マスター含む））

③ インターンシップTF

インターンシップのあり方（学生、若手教員）
インターンシップの実施体制（マッチング等）

④ リカレント教育TF

リカレント教育に求められること

14

平成21年度活動方針について

平成21年度の人材育成委員会の活動は次の3つの活動を中心に行います

1. ITSS推進運動
- 共通キャリア・スキルフレームワークの推進
2. ITパスポート推進
- ITパスポート推進部隊の構築
3. 産学協同によるIT人材育成の支援
- 産業界から教員派遣のための施策



15

CSAJ人材育成委員会

次回の人材育成委員会は3月 日の予定です
詳細については追ってご連絡いたします



16

第6回人材育成委員会 配布資料抜粋

CSAJ人材育成委員会 3月度委員会



2009年3月17日
人材育成委員会委員長
宇野和彦

本日の議題

議題

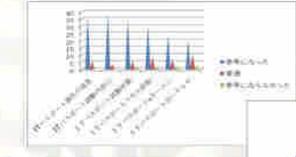
- ITパスポート紹介セミナー アンケート分析
 - IPA報告
 - IPAの今後の施策
 - ITパスポートフォローアップセミナーについて
- ITSS導入実証実験企業の現状に関して
 - ニスコム
 - システム・エグゼ
 - アールワークス
- IT人材調査報告 (PA資料参照)
- 産学連携 IT人材育成実行WG活動方針案
- 平成21年度人材育成委員会活動方針について
 - 推進の柱は本年度と同じ
 - 活動は4月からスタート
- IT人材育成に関する情報交換

ITパスポート紹介セミナーについて

- ITパスポート紹介セミナーをCSAJ主催で実施
- 全国6ヶ所での開催を計画
- 1月26日 名古屋地区 参加予定者数 30名 申込40名
- 1月27日 大阪地区 参加予定者数 70名 申込60名
- 1月28日 福岡地区 参加予定者数 40名 申込60名
- 2月 2日 東京地区 参加予定者数 60名 申込70名
- 2月 5日 広島地区 参加予定者数 30名 申込35名
- 2月 9日 札幌地区 参加予定者数 80名 申込75名
- 各地での申し込みが殺到し、名古屋地区、福岡地区、東京地区では申し込み受付を締め切る状況が発生
- 東京地区での反応があまりにも大きいので、2月13日追加開催決定(40名枠)したが、すぐに満員

ITパスポート紹介セミナーについて

東京地区2月2日のアンケート結果



今後の取組

- ※ITパスポートの認知度を高めるための取組を推進する
- ※ITパスポートの認知度を高めるための取組を推進する
- ※ITパスポートの認知度を高めるための取組を推進する
- ※ITパスポートの認知度を高めるための取組を推進する

ITパスポート紹介セミナーについて

今後の取組

- 名古屋地区
- 大阪地区
- 福岡地区
- 東京地区
- 広島地区
- 札幌地区

ほぼ90%がITパスポートへの取組を検討中

ITパスポート紹介セミナーについて

今回のセミナーのアンケートから次のような傾向が見えます。

- ITパスポートへの関心はある程度高い
- でも情報不足を受難者は感じている
- どのような試験対策が望ましいのかが模索中
- 初級シスアドの講師も受験を検討中
- パソコン教室が今後のビジネスとして検討中
- 大学、短大、専門学校での取り組みがかなり進んでいるが、高等学校での取り組みが始まっている
- 企業における資格としての取り組みは不透明

IPAのIT人材調査報告書に企業での取り組みについての調査結果がある。

ITパスポート試験申込状況

4月19日に実施される平成21年度春期情報処理技術者試験の申し込み状況は別紙参照 (IPA報告書)

ポイントは下記の通り

- 応募者は7年ぶりに増加し292,842名
前年同期比12.1%増
- ITパスポートは46,802名の応募で新規創設の試験区分としては過去最高の応募数
- 初級シスアドの応募者は27,864名
ITパスポートと合わせると74,666名
この傾向だと年間十万人規模の試験になる

ITSS体系導入について

本年度導入実証実験の企業の発表と今後の活動内容について
今年度ITSS体系導入実証実験を行う企業は・・・
◎実施中

- ◆ 会社名：ニスコム株式会社
- 対象人数：46名
- 使用システム：株式会社ネクストエデュケーションシテック (ITSSレベルチェッカー)
- 12月8日～12月25日コンサルタントによる面談・評価の実施

※後は900名前後の社員を対象としたスキル診断を実施の予定
現在組織変更を行っているため、フォローアップは4月以降に延期

ITSS体系導入について

本年度導入実証実験の企業の発表と今後の活動内容について
今年度ITSS体系導入実証実験を行う企業は・・・

◎実施中

- ◆ 会社名：株式会社アールワークス
対象人数：5名
使用システム：株式会社ネクストエデュケーションシネク
(ITSSレベルチェッカー)
2月19日～24日コンサルタントによる面談・評価の実施
職種選定において多少の思い込みがあったので、再度職種を
変更（ITスペシャリスト・ITサービスマネジメント）して
スキル診断を受験予定

◎実施準備中

会社名：株式会社システムエグゼ
3月下旬から4月上旬にかけて50名の選抜メンバーを選出

9

I PA IT人材調査報告書

- IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：西畑 信吾）は、2009年2月26日に、2008年度に実施した調査の報告書「IT人材市場動向調査：調査報告書第1巻」を公開しました。
- IPAでは、2007年度に実施しました「IT人材市場動向予備調査」の結果を踏まえ、IT人材の専攻領域検討に向けた基礎情報を収集するための調査として「IT人材市場動向調査」を実施しました。
- 本調査は、日本国におけるIT人材の職種やレベルなどの雇込状況やオファショア活用状況および産学におけるIT教育の状況などの調査を重点的、継続的に行い、今後のIT人材育成施策の立案などの基礎資料とすることを目的として実施したものです。
- 本調査報告は、「調査報告書第1巻」として4冊に分けて公開します。また、調査報告完全版は「IT人材白書2009」として5月中旬ごろを目途に出版する予定です。

10

調査概要

「IT人材市場動向調査」では、以下の調査を行っています。今回公開する項目は、右線で囲まれた項目です。

- No.1 -
1. 【IT企業向け】IT人材動向調査 2月26日発表分
2. 【ユーザー企業向け】IT人材動向調査
- No.2 -
3. 【大学向け】情報系学生・修習動向調査 / 情報系学科在籍学生数調査 9月13日発表分
4. 【卒業生向け】情報系専門学科のカリキュラム評価
- No.3 -
5. 【学生向け】情報サービス産業のイメージ分析調査
6. 【IT・その他産業社人】他産業との就業満足度比較調査
- No.4 -
7. 【IT企業向け】オファショア動向調査
8. 【ユーザー企業向け】海外ITサービス利用動向調査

詳細資料は別紙参照

11

資料3-3

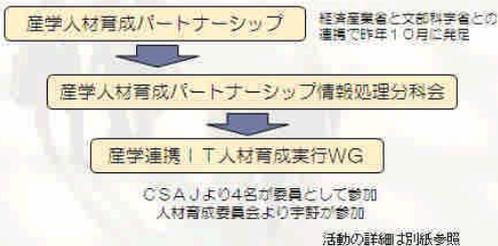
「産学人材育成パートナーシップ」について ～産・学 双方の対話と行動を実現する 大学教育 産学連携の枠組み作り～

平成19年10月
文部科学省・経済産業省

1

人材育成関連情報

高度IT人材育成推進体制の整備（ナショナルセンター的機能の強化）



活動の詳細は別紙参照

12

産学連携IT人材育成実行WG

4つのタスクフォース

①教員強化TF

- 教員の紹介：教員となる優秀な実務者の大学への紹介
- FD実施：教員候補実務者へのトレーニング（集中講義型研修等）
- 教員サポート：大学教育における講義内容の体系化・教育手法等

※平成21年度活動方針案が作成されました。

概要は下記の通り（詳細は別紙参照）

- 産業界から実務家教員を大学派遣する
- 派遣できる企業の実態調査を行う
- 受け入れ側の大学での処遇について調査
- 実務家教員への教育力の調査会を開催（米国の事例を参照）
- マッチングセンターで派遣先を調整する

14

平成21年度活動方針について

平成21年度の人材育成委員会の活動は次の3つの活動を中心に行います

1. ITSS推進運動
-共通キャリア・スキルフレームワークの推進
2. ITパスポート推進
-ITパスポート推進部隊の構築
3. 産学協同によるIT人材育成の支援
-産業界から教員派遣のための施策



15

「ITパスポート試験紹介セミナー」実施報告書

はじめに

平成 20 年 4 月に発表された新情報処理技術者試験制度は、平成 18 年度の経済産業省 産業構造審議会情報サービス・ソフトウェア小委員会 人材育成 WG で「高度 IT 人材の育成をめざして」の検討が開始され、平成 19 年 7 月 20 日に「高度 IT 人材の育成」と題する報告書に基づいて平成 20 年 4 月に新試験制度として発表されました。

その後、試験を受験する側ではその情報はある程度認知されつつありましたが、資格取得者を評価する側の産業界での認知度は極めて低いと思われました。

そこで C S A J 人材育成委員会は IT パスポート試験の認知度を上げる目的で、全国での紹介セミナー開催を企画し、独立行政法人情報処理推進機構 (I P A) からの全面的な協力を得て、開催することになりました。

セミナーの概要は下記の通りです。詳細は報告書の企画資料参照

- 1) 開催場所：東京、大阪、名古屋、福岡、広島、札幌 (6 都市)
- 2) セミナー内容：IT パスポート試験制度の紹介と合格するための準備について
- 3) 集客対象者：学校関係者 (大学、短大、専門学校、高校)、教育事業者 (パソコン教室経営、企業系教育機関) そして企業 (企業内で人材育成の手法としての利用)
- 4) 開催時期：IT パスポートのインターネット締め切り前 (2 月 19 日前) 1 月 26 日 ~ 2 月 13 日

セミナー申込は各地で定員を超える状況となり、東京地区では 2 回目の開催を企画する状況となりました。そのセミナーに参加者の申込情報、参加アンケート、試験対策への関心度の情報を収集しましたので、その内容を分析しました。以下報告いたします。

尚、今回のセミナー開催に際しては、I P A 試験センター企画グループリーダー 下出様 および林副センター長様の多大なるご協力で実施できましたことをここに感謝いたします。また、セミナー実施に際しては、C S A J の人材育成委員会のメンバー (インフォテック・サーブ様、ネクストエデュケーションシンク様、Y ' s ラーニング様、ライトニング様、T A C 様) と富士通エフ・オー・エムの各地の営業所の皆様、さらには北海道庁の皆様のご協力があり、成功裡に終わったと考えております。改めて皆様には書面を持ちまして恐縮ですがお礼を申し上げます。

2009 年 2 月 27 日
C S A J 人材育成委員会
委員長 宇野和彦

・「ITパスポート紹介セミナー企画書」

ITパスポート紹介セミナーの企画者は12月初旬に初版が作成され、その後何回か改訂されました。下記が最終バージョンです。

2009年1月8日

ITパスポート紹介セミナー開催企画書案 (Ver8) (追記)

名称	ITパスポート紹介セミナー 「持った人になる？ 持たないまま？ 自分の未来だよ。」	
主催	社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) 人材育成委員会	
協力	北海道 経済部商工局 ITパスポート普及推進コンソシアム	
講師派遣	独立行政法人 情報処理推進機構 IT人材育成本部 情報処理技術者試験センター	
開催予定地	東京、大阪、名古屋、福岡、広島、札幌	
開催予定月日	1月26日 名古屋 マルカン酢伏見ビル1階会議室(収容人数 30名) 1月27日 大阪 富士通関西システムラボラトリ(収容人数 100名) 1月28日 福岡 福岡商工会議所 (収容人数 80名) 2月2日 東京 市ヶ谷会議室 (収容人数 70名) 2月5日 広島 広島イーストビル会議室(収容人数 50~70名) 2月9日 札幌 北海道庁会議室 以下は東京地区の参加希望者が多数のために追加しました(1月20日) 2月13日 東京(2) 赤坂山王会議室(収容人数 40名)	
セミナー内容 と 発表時間	開場・ 12:30~ セミナー開会(人材育成委員会委員長挨拶) 13:00~ 開会の挨拶 (当該地区の責任者) 13:05~13:10 第一部 ITパスポート試験制度とは 1. ITパスポート誕生の背景 13:10~13:40 【説明内容】2007年7月20日に発表された高度IT人材育成WGでの答申内容にある3つのスキル標準と情報処理技術者試験制度との整合性を図るために、共通キャリア・スキルフレームワークが発表され、それに準拠してツールとして利用する目的で新情報処理試験制度が改訂された。その中で注目すべきがITパスポート試験である 講師：社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材育成委員会委員長 宇野和彦 2. ITパスポート試験内容について 13:40~14:20 【説明内容】上記背景説明を受けて・・・ 2009年4月から開始する新情報処理技術者試験制度の全体像から、ITパスポート試験の内容にまで、新試験制度ではどのような人物像が描かれているのか、その求められる知識やスキルとは旧来の試験制度との違いはどの程度なのかについて解説をする。 講師：IPA情報処理技術者試験センター企画グループ 1月26日・27日 下出リーダー 1月28日 林副センター長 2月2日 下出リーダー 2月5日 林副センター長 2月9日 下出リーダー 2月13日 下出リーダー - 休憩 - 14:20~14:30	

	<p>第2部 ITパスポート試験に合格するには</p> <p>3. ITパスポート試験対策について 14:30~14:50 【説明内容】 ITパスポート試験の内容を、最新の『ITパスポート試験(レベル1)シラバス』を基に初級システムアドミニストレータ試験や基本情報技術者試験と比較しながら予測します。また、試験対策用講座を開設する場合のカリキュラム作成や教材選定のポイントを説明します。 説明者：インフォテック・サーブ 取締役 木田氏</p> <p>4. ITパスポートスキル診断システム 14:50~15:10 【説明内容】 ITパスポート試験に備えて、自分の現在のスキルレベルを簡単に判定できるスキル診断システムを紹介する。スキル診断の方法としては、1)CSAJの専用ポータルサイト上で10分程度で気軽に自己チェックができる無料体験Web診断、2)30分程度で分野ごとの弱点がある程度分かる腕試しWeb簡易診断、3)実際の本試験と同じ165分で100問の小問と中間を解き、1000点満点で高精度に診断する全国Web模擬試験、4)携帯版などを提示し、その利用方法も案内する。 説明者：ネクストエデュケーションシンク 代表取締役 齋藤氏</p> <p>5. ITパスポート Eラーニング紹介 15:10~15:30 【説明内容】 ITパスポート試験対策の手段としてEラーニングでの学習がある。ITパスポート試験受験対策としてのEラーニングの位置づけと利用法について紹介する。市場にはすでに多くの対策用Eラーニングが紹介されているので、その概要を紹介し、その特徴、価格、利便性などを紹介する。 説明員：富士通エフ・オー・エム営業本部 課長 林氏</p> <p>6. ITパスポートポータルサイト紹介 15:30~15:50 【説明内容】 ITパスポート試験対策講座を構築するには、講座内容(シラバス、カリキュラム)講座で使用するテキスト、スキル診断システムの導入、講師派遣の必要性などの検討が必要である。そのような情報を一か所から提供するのがポータルサイトである。ポータルサイトの有効な利用方法について説明する。 説明員：ライトニング 教育事業部 マネジャー 片山氏</p> <p>7. 質疑応答(20分間) 15:50~16:10</p> <p>8. ITパスポート試験に関するコンサルテーション 16:10~17:00</p> <p>終了 17:00</p>
対象者	<ol style="list-style-type: none"> CSAJメンバー企業及び関連団体のメンバー企業 ネット公募客先(CSAJ・参加協力企業のサイトで紹介) 大学関係(現在IPAの試験会場になっている大学とパソコン検定会場の大学) 大学生協関連ネットワーク 一括申込企業(IPA主催東京・大阪セミナーに参加できなかった企業への追加呼び込み) 参加企業の取引先
募集方法	<ol style="list-style-type: none"> CSAJメンバー企業への告知メール(CSAJより) CSAJ 賀詞交歓会での告知(IPA 西垣理事長挨拶)と会場入り口における告知(ポスター・新聞・セミナー案内等) Web告知・申し込みサイト(リンクCSAJ・NET) パソコン検定協賛会社(PASS 認定校) Vue 協賛会社(CBT 実施企業)

	6．情報処理技術者試験会場の大学への直接訪問・勧誘 7．私大協・私大連・国大連・全国専門学校情報教育協会への協力要請 8．大学生協への協力要請 9．IPAの広報の利用
参加協力企業 (ITパスポート普及推進コンソシアムメンバー候補者)	1．インフォテック・サーブ 2．ネクストエデュケーションシンク 3．ライトニング 4．Y'sラーニング 5．富士通エフ・オー・エム 6．TAC 7．パソコン検定委員会(レイル)
経費	1．講演者の交通費及び宿泊費は各自負担とします 2．集客はできるだけメールを利用することにより郵送費は計上しません。 3．参加企業は参加される関与度に従って、参加費を徴収致します。参加費の用途目的は会場費(会場賃貸料・飲料費・プロジェクター・スクリーン使用料他) 広報(DM)費です。
セミナー案内	事務局にてセミナー案内チラシのドラフト及びメール文面を作成しました。この企画書の4頁5頁をご参照ください。各社はその内容をベースに自分のネットワークを通じてセミナー案内を発送して下さい。 ITパスポートセミナーの案内サイトは http://www.itpass.net/itpass/ です。申し込み受け付け機能がありますので、こちらへの誘導をお願い致します。
事務局	事務局はCSAJ人材育成委員会及びライトニングが担当します。 連絡先：CSAJ人材育成委員会：(jinzai@csaj.jp)(03-5157-0780) 戸島 ライトニング： light-x@w2.dion.ne.jp (03-3478-3307)
IPA窓口	今回のセミナーでIPA関係の講演者のお手配を頂くのは情報処理推進機構IT人材育成本部情報処理技術者試験センター企画グループ グループリーダー 下出 政樹様です。 今回のセミナーに関連して、十分なポスター・パンフレットを準備いただいております。
今後の日程	1月7日 参加企業打ち合わせ。 1月8日以降は必要に応じて連絡を取ります。 1月26日 名古屋地区ITパスポートセミナー開催以下順次開催
備考	セミナー会場での営業活動は全体のセミナー終了後に行ってください。 セミナー参加者の情報(アンケート、名刺)はその地区毎に共有出来る方向で調整いたします。尚、事務局は全情報を把握しますが、その利用は限定します。

各社よりのメール等により案内状は下記の案内文を御参考の上、各社にて作成していただき、配布してください。

【ITパスポートセミナー案内サイト】
 ITパスポートセミナー申し込み用のサイトを開設しました。
<http://www.itpass.net/itpass/>



「ITパスポート参加者分析」

今回7か所のセミナーへの申し込み者総数は341名です。当日の参加者は288名です。

1) 地区別申込者

地区別は下記の通りです。

日時	会場	申込者	参加者
1月26日(月曜日)	名古屋(富士通FOM名古屋)	39名	34名
1月27日(火曜日)	大阪(富士通関西ラボラトリ)	45名	41名
1月28日(水曜日)	福岡(商工会議所会議室)	45名	40名
2月2日(月曜日)	東京(トスラボ大久保会議室)	71名	60名
2月5日(木曜日)	広島(富士通FOM広島)	26名	22名
2月9日(月曜日)	札幌(北海道庁会議室)	69名	55名
2月13日(金曜日)	東京(トスラボ赤坂山王会議室)	46名	36名
	合計	341名	288名

2) 参加者プロフィール

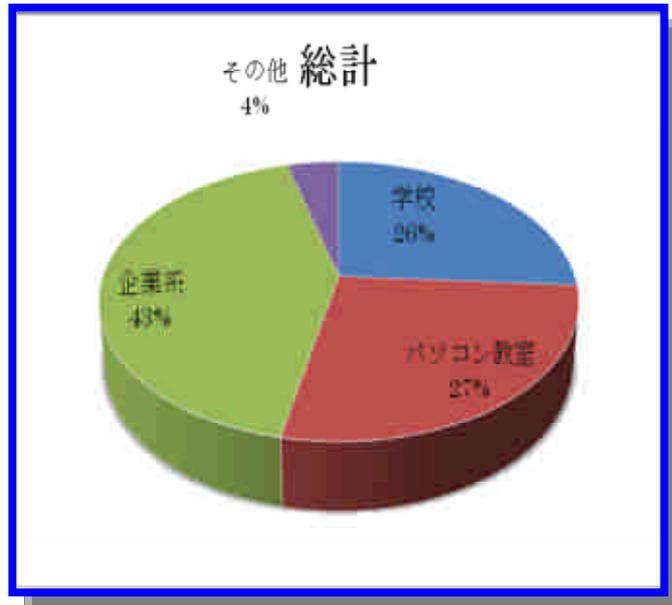
今回のセミナーにどのような職種のかたが興味を示され、申し込みをされたのかを分析してみました。参加者の職種を下記のように分類しています。判定は、各社のホームページを参照して判定しています。

1. 学校関係者(大学・短大・専門学校・高等学校)
2. 教育事業者(パソコン教室経営(系列あり/個人)・企業系教育事業者)
3. 企業系(人材育成関連部門、営業・システム関連部門、その他)
4. その他

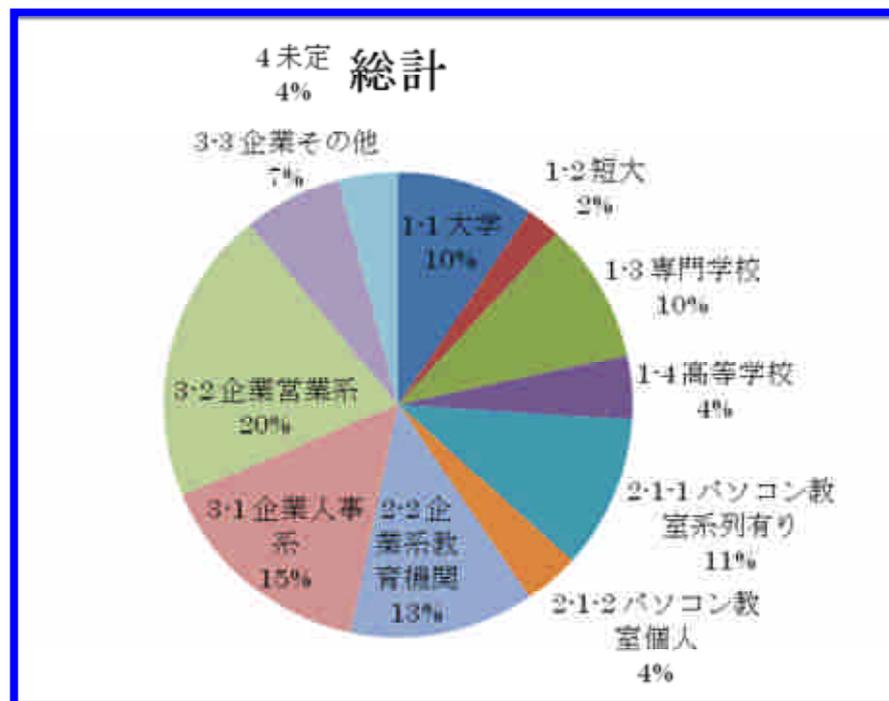
	総計	名古屋	大阪	福岡	東京1	東京2	広島	札幌
大学	32	1	16	1	2	2	5	5
短大	8	2	0	5	0	0	1	0
専門学校	33	3	2	9	3	0	3	13
高等学校	15	0	0	0	0	0	4	11
パソコン教室 系列有り	36	8	8	3	9	5	0	3
パソコン教室 個人	13	5	1	1	2	0	4	0
企業系教育 機関	43	5	7	14	6	1	2	8
企業人事系	52	5	1	4	19	10	1	12
企業営業系	69	4	4	5	20	23	4	9
企業その他	23	4	1	3	6	4	0	5
未定	14	1	4	1	4	1	0	3
総計	338	38	44	46	71	46	24	69

参加者プロフィールをグラフにすると次のようになります。

1) 参加者総計分析

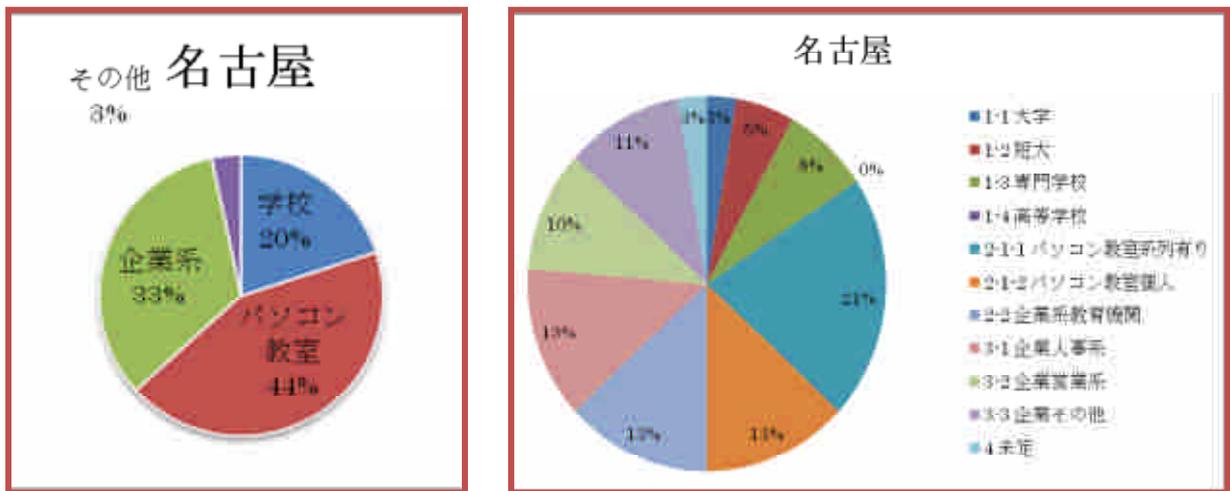


詳細職種別分析 (総計)



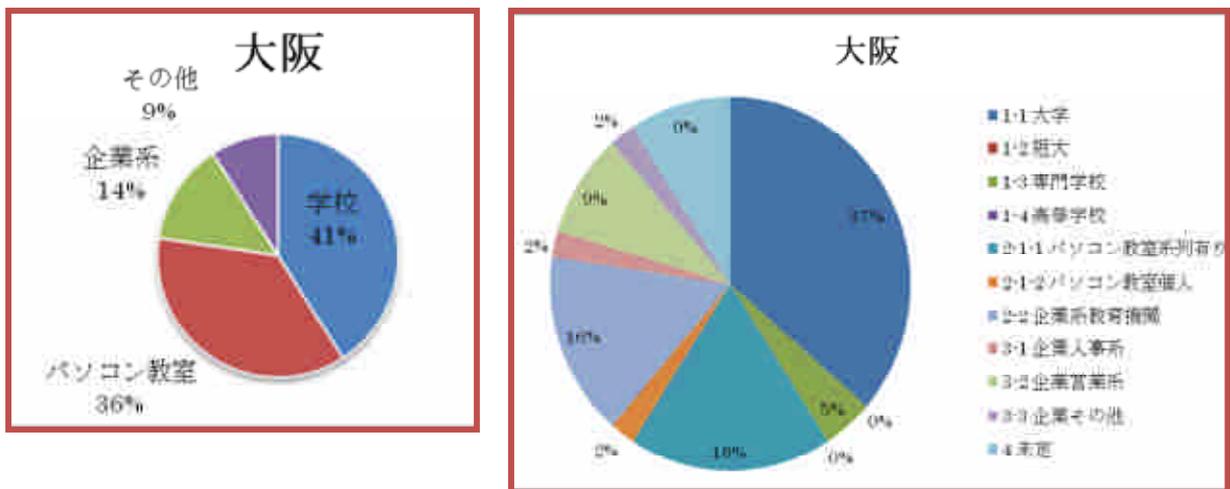
2) 地区別参加者プロフィールは次の通りです。

【名古屋地区】



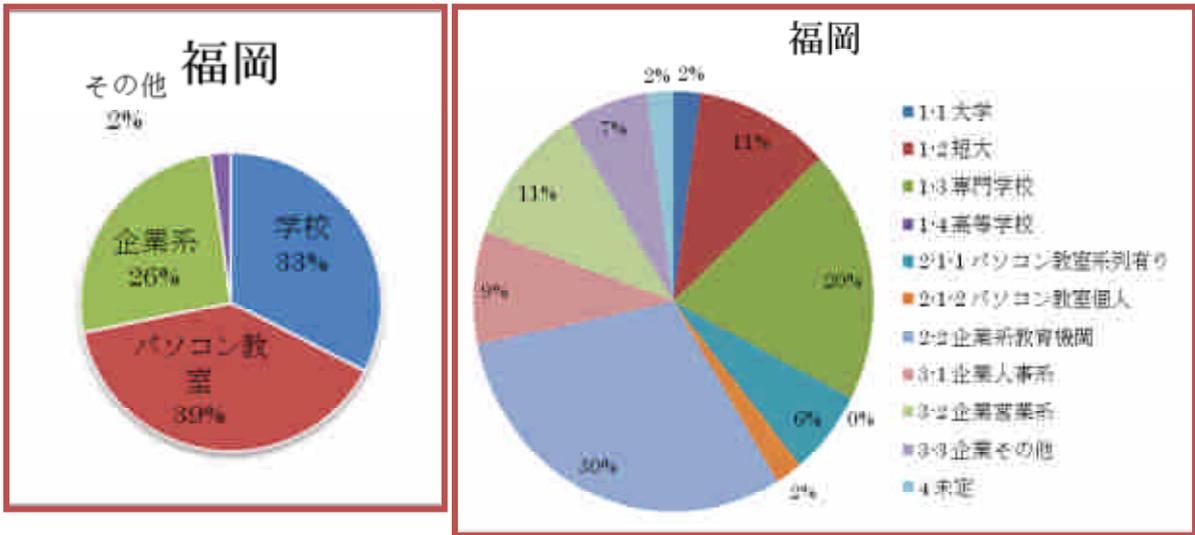
最初の開催地である名古屋では、パソコン教室関係者が高い関心を持たれて参加されています。その多くが現在パソコン検定対策講座を行っており、今後どのような対策が求められるのかに関心が高かったようです。全国に展開している大手パソコン教室も、チェーン店をどのように指導すべきかを検討するとのことでした。

【大阪地区】



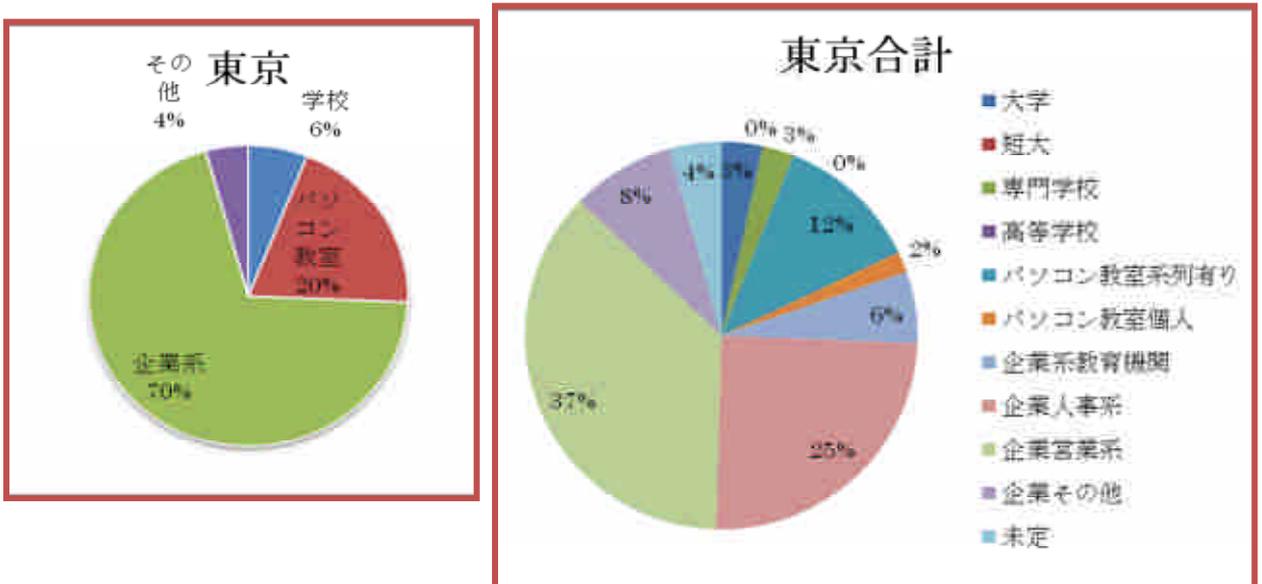
大阪地区では大学関係者がこの資格の産業界がどのように評価をするのか、また、ITパスポート試験の難易度に関心が高かったようです。名古屋と同様にパソコン教室系は今後の教室での取り組みの方向性を模索中の様子でした。

【福岡地区】



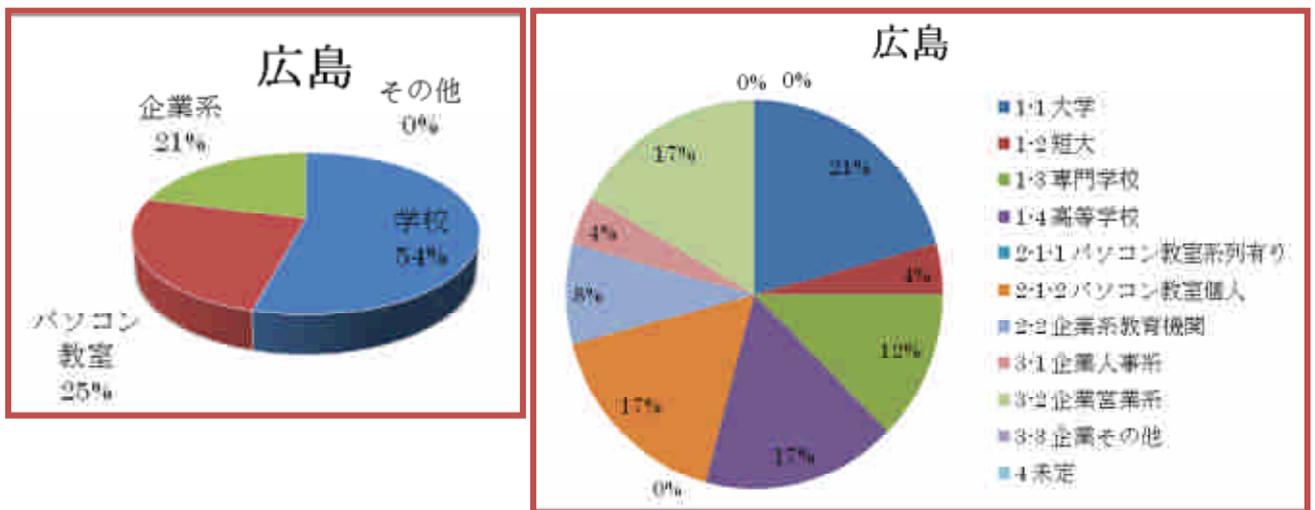
福岡地区では有名大学の情報系の教授や事務局が参加され、ITパスポート試験の内容に関して興味があるとのことでした。福岡地区は特に参加者が最後まで参加され、できるだけ多くの情報を得ようとされる姿が印象的でした。テキストや診断システムへの反応は高く、多くの参加者がテキストの献本を依頼していました。

【東京地区1・2】



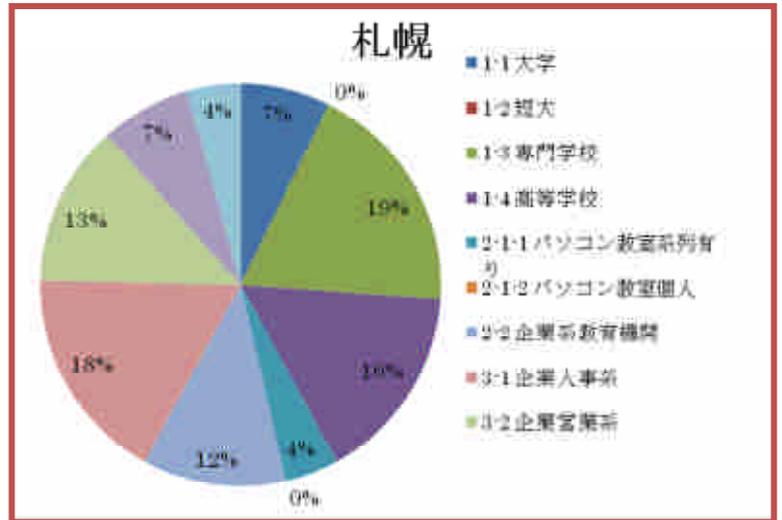
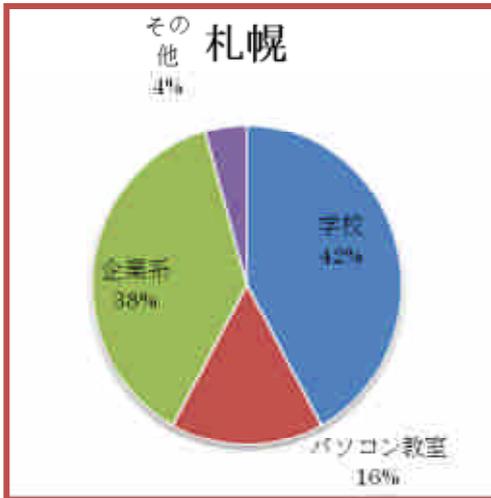
東京地区は当初の予定の70名をすぐに超過する勢いで申し込みがあり、急遽、追加講演を企画するほどの盛況でした。参加者プロフィールを見ると、他の地区とは極端に企業系の参加者が増えています。企業系は今回のITパスポート試験を企業内人材育成の手段とするという観点より、新入社員研修や募集段階での人材育成のツールとしての利用方法を検討しているように思えます。今回大学や短大系の参加が減っているのは入試関連の時期とぶつかっているとのことで、時期を変えれば学校関係者の参加は他の地区を同様な規模があったのではないかと思います。また、海上自衛隊や陸上自衛隊の参加もあり、この資格の取組に幅が広いようです。

【広島地区】



広島地区の集客はかなり出遅れた感があり、当初参加人数が集まるか心配でしたが、最終的には24名の方に参加いただきました。この中で注目は高等学校の先生の参加です。宮島高校からは4名の先生が参加され、熱心にITパスポート試験内容に関して質問等もされていました。4月以降の授業外での取組を決定されているようです。今後は高校生がこの試験に挑戦する風土も考える必要があると感じました。

【札幌地区】



札幌地区では北海道庁の協力で開催することになりました。北海道でのセミナー告知はほとんど北海道庁からの案内が中心です。北海道庁は学校関係者を中心に集客をいただきました。その結果、大学から専門学校、さらには高等学校まで幅広い学校関係者が参加されました。北海道地区ではITを地区の今後育成産業として位置づけており、その意味で、ITパスポート試験を利用したIT人材の育成を推進することによって、このセミナーの1週間後にもIT人材系のセミナーを企画されています。しかし、ITパスポートの試験をはじめとして多くの情報がスムーズに伝わっていないという現状を解決する必要性を強く感じました。

【参加者フォローアップ】

参加申し込みをされたが当日参加できなかった方々に関しては、それぞれの地区のセミナー責任者がフォローをしています。セミナー当日配布した資料などを該当者へお届頂いています。

また、学校関係者は試験の関連で参加できないとのこと資料のみの請求もあり、かなりの資料をお送りしています。

今回のセミナーの内容はCSAJのホームページでも紹介しています。

3) 来場者アンケート分析

来場者にはアンケートの記入をお願いしました。記入された来場者アンケートの内容を分析しました。アンケートは次のような内容です。

本日はお忙しい中、「ITパスポート紹介セミナー」にご参加いただきありがとうございます。今後のセミナー・説明会の企画・運営の際に参考にさせていただきたいと思いますので、以下のアンケートにご回答くださいますようお願いいたします。(無記名でも結構です)

お名前	会社名・団体名	所属部署名	連絡先

1. 内容について

セミナー内容	参考になった	普通	参考にならなかった
ITパスポート誕生の背景			
ITパスポート試験内容について			
ITパスポート試験対策用、教材について			
ITパスポートスキル診断システム			
ITパスポートeラーニング紹介			
ITパスポートポータルサイト紹介			

2. 今後、ITパスポートについてはどのように取り組まれますか？

回答欄	ITパスポートへの取り組みについて
	4月の受験を目指して、すでに取り組んでいる
	4月もしくは10月の受験を目指して、取り組む予定である
	ITパスポートへの取組みについては今後検討する
	ITパスポートへの取組みは行わない
	今後の取組みは不明(未定)

3. 所要時間および配布資料はいかがでしたか？

所要時間

長い
丁度良い
短い
その他()

配布資料

良い
普通
悪い

4. CSAJでは、年間を通して各委員会・研究会を中心としたセミナーや業界トレンド的なセミナー、実務研修などを企画・実施しております。今後、CSAJで企画・実施してほしいセミナー・説明会や研修講座などがありましたら以下の中から選択して下さい。(複数回答可)

知財権等の法改正・新法制度等に関する内容
 税制等の税制改正・新税制に関する内容
 海外市場や海外進出などに関する内容
 人材育成に関する国の施策等に関する内容
 大手IT企業の技術・マーケティング戦略・ビジネス提携等の情報提供
 技術的新政策案・新制度案等に関する内容
 その他(具体的なテーマがあれば以下にご記入下さい)

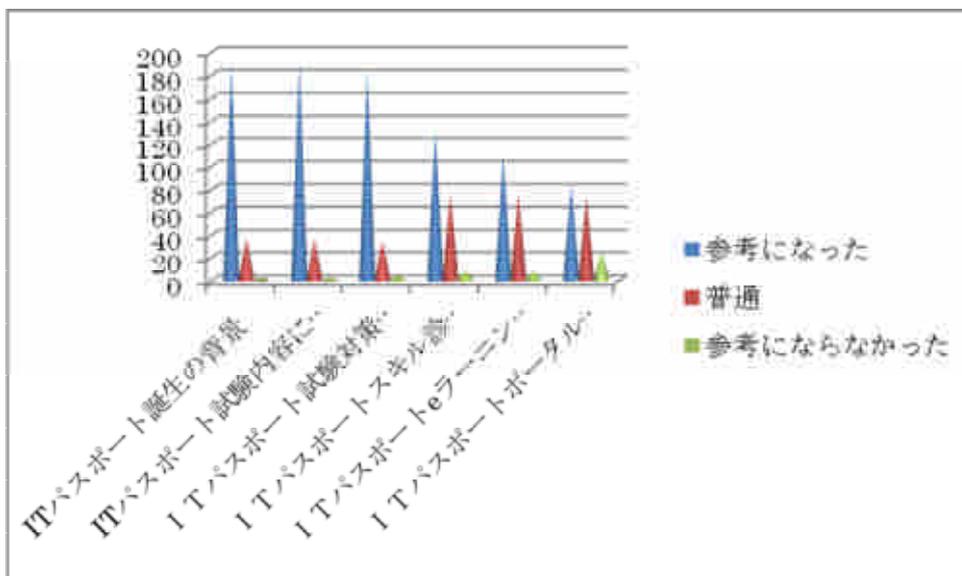
()

5. 本セミナー・説明会およびCSAJの活動についてご意見・ご感想等がありましたらご記入下さい。

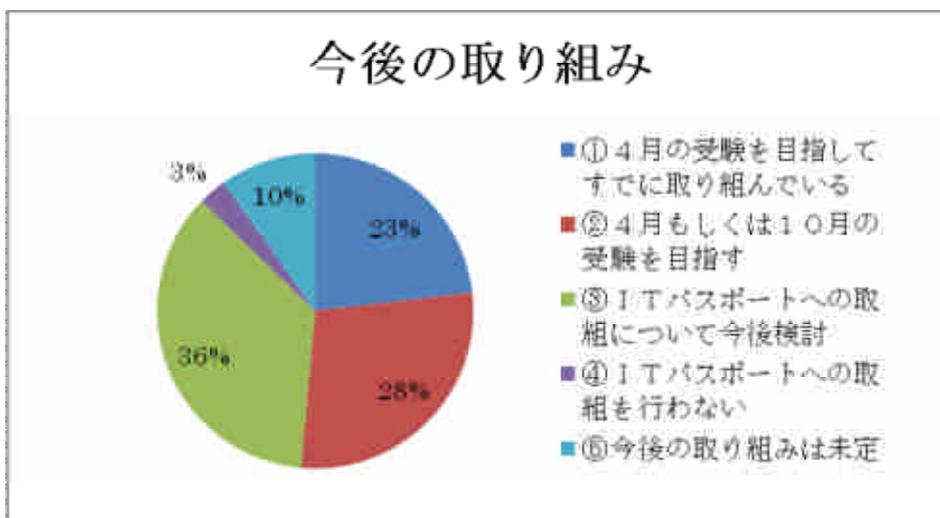
このアンケートを集計した結果、1.内容について、2.今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？3.所要時間及び配布内容についての質問に対する回答は次の通りです。

【全体 7か所】

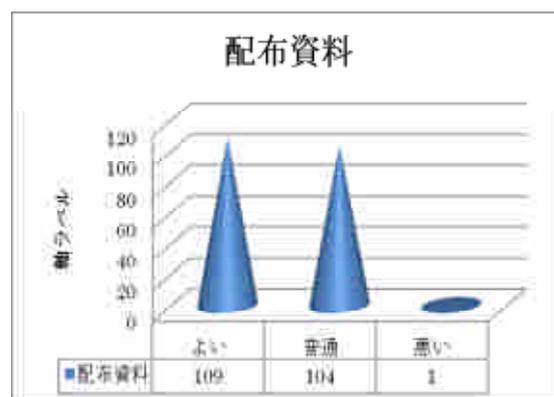
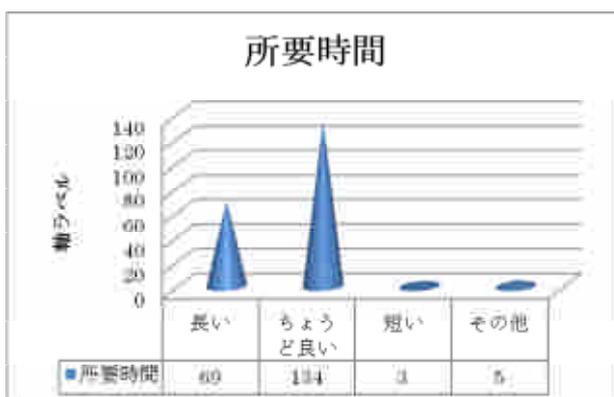
1.内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



3. 所要時間及び配布資料について

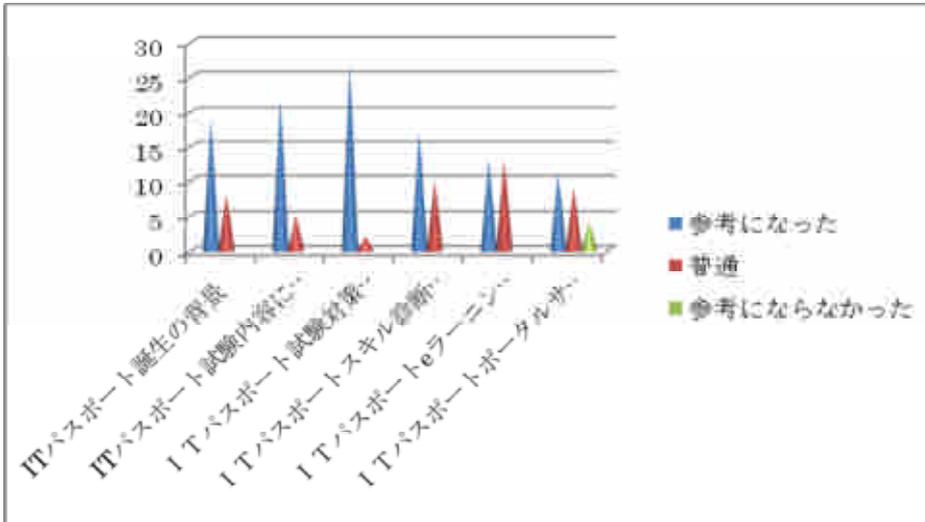


地区別のアンケートは次の通りです。

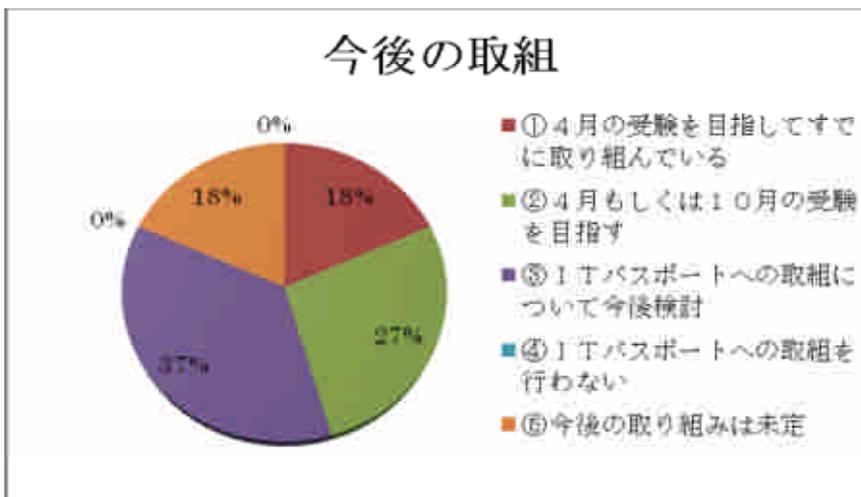
ITパスポートセミナー【名古屋地区】 1月26日(月曜日)

来場者アンケート 申込者数 39名 来場者数 34名

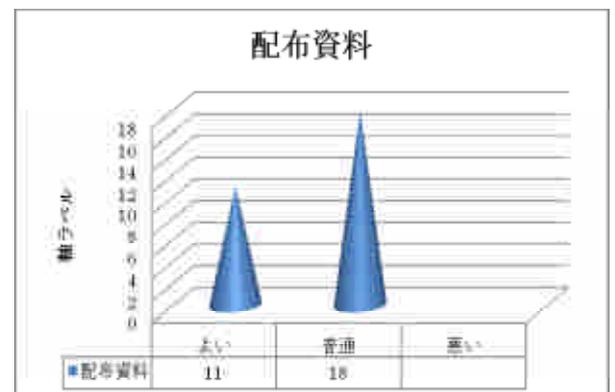
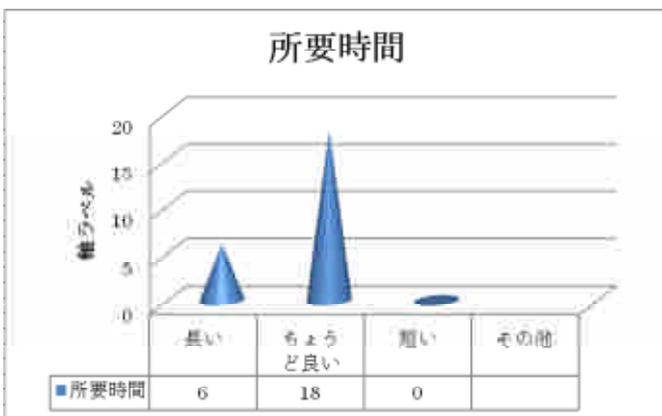
1. 内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



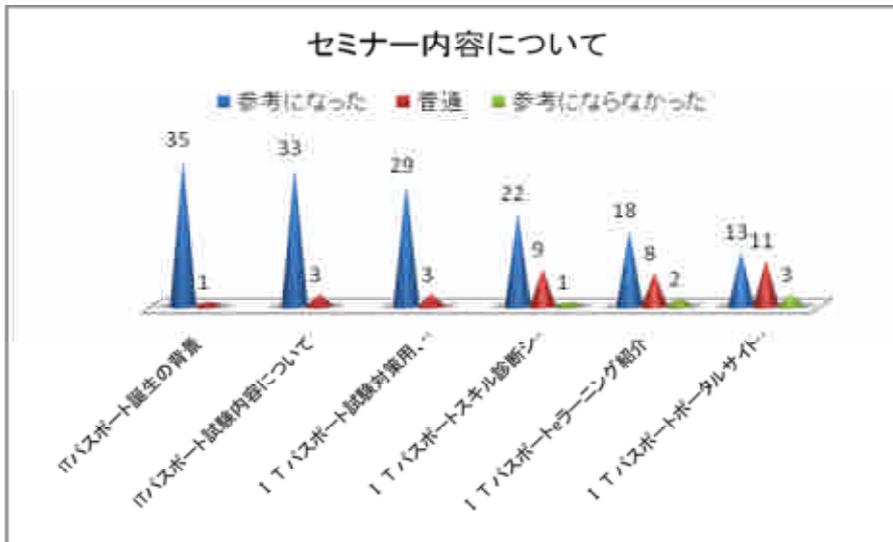
3. 所要時間及び配布資料について



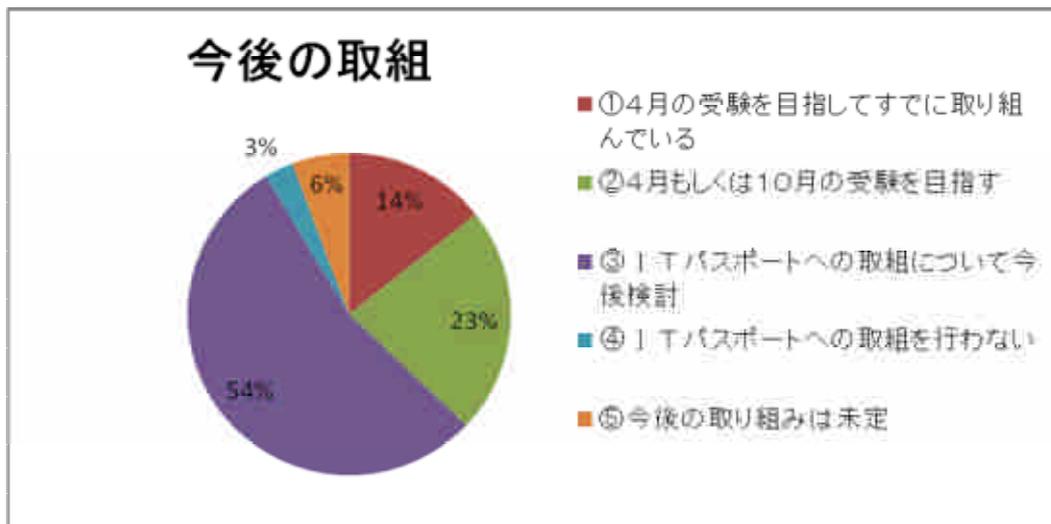
ITパスポートセミナー【大阪地区】 1月27日(火曜日)

来場者アンケート 申込者数 45名 来場者数 41名

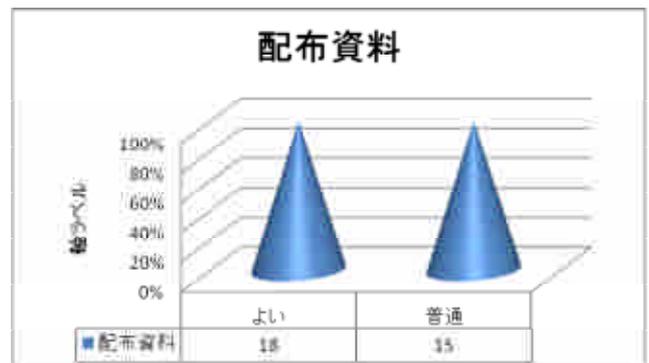
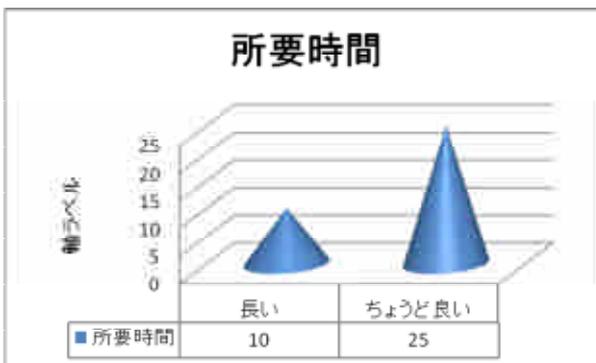
1. 内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



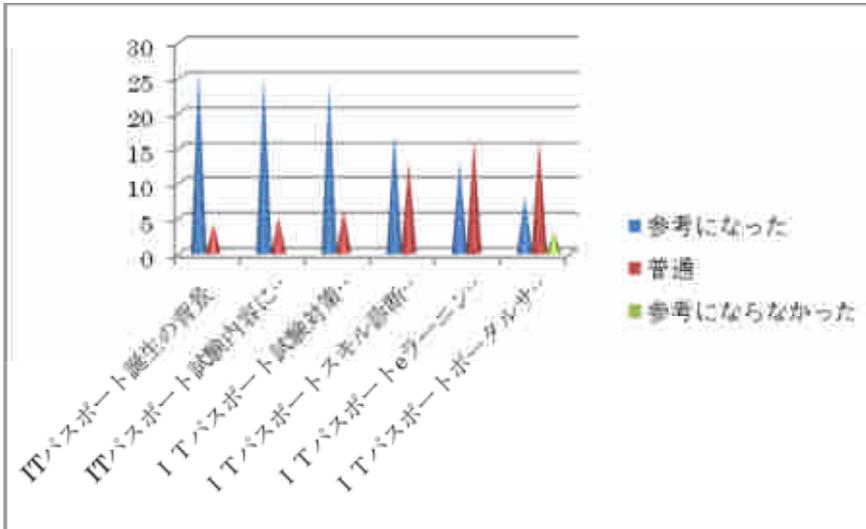
3. 所要時間及び配布資料について



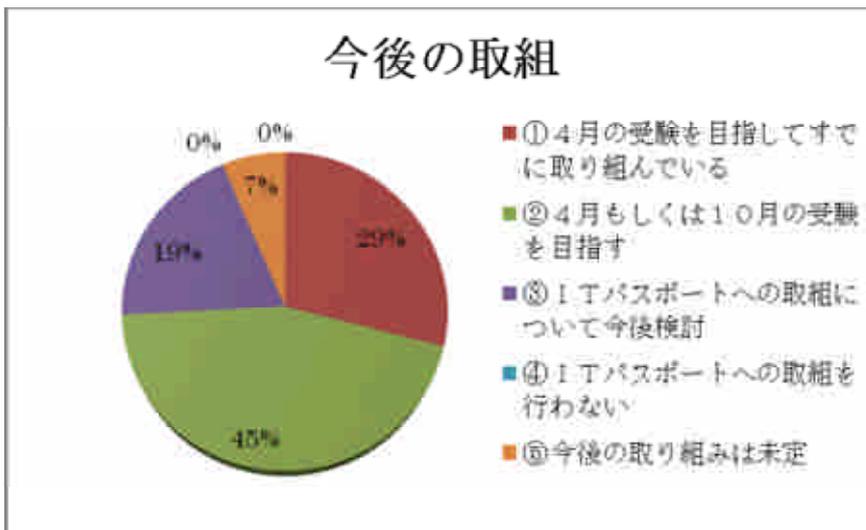
ITパスポートセミナー【福岡地区】 1月28日(水曜日)

来場者アンケート 申込者数 45名 来場者数 40名

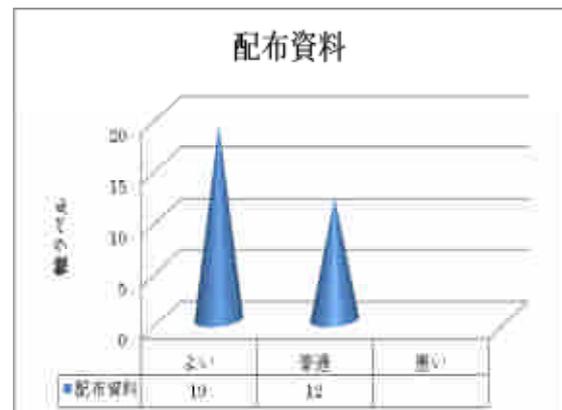
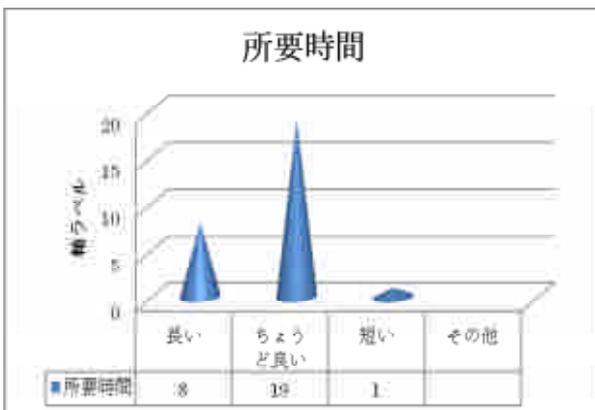
1. 内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



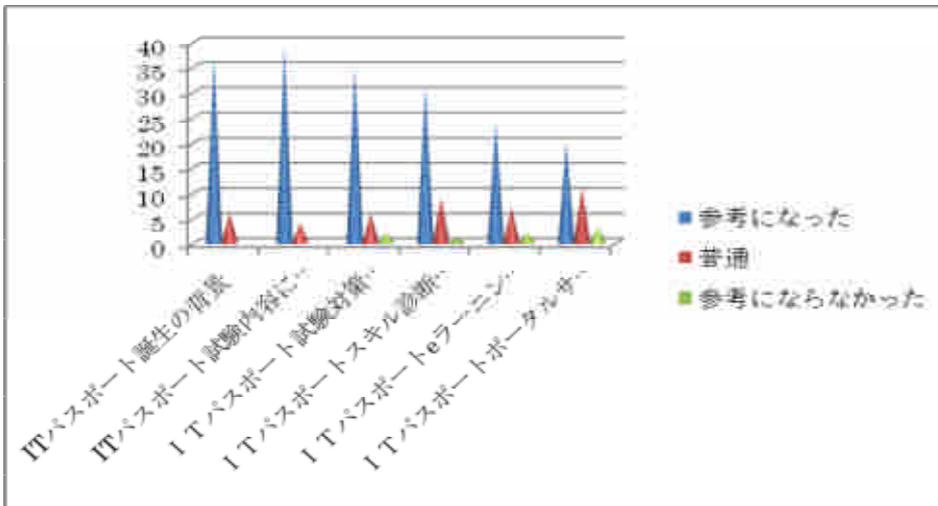
3. 所要時間及び配布資料について



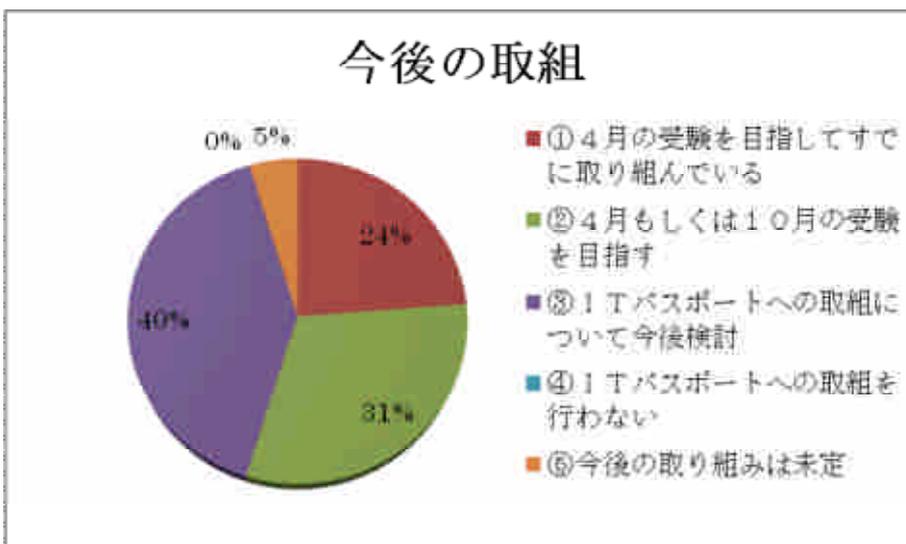
ITパスポートセミナー【東京1地区】 2月2日(月曜日)

来場者アンケート 申込者数 71名 来場者数 60名

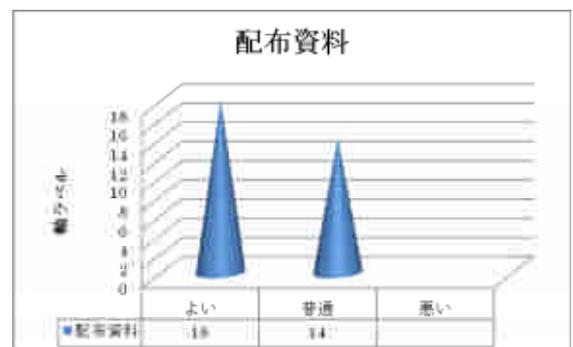
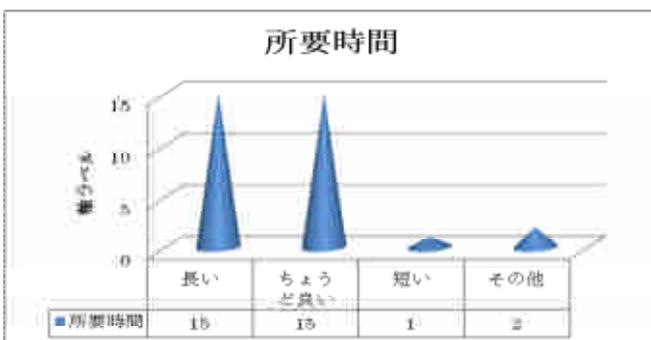
1. 内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



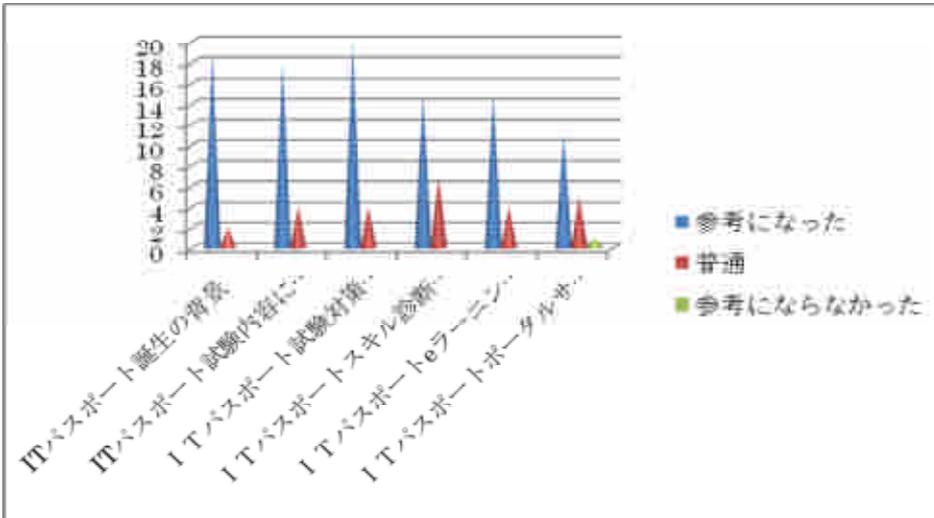
3. 所要時間及び配布資料について



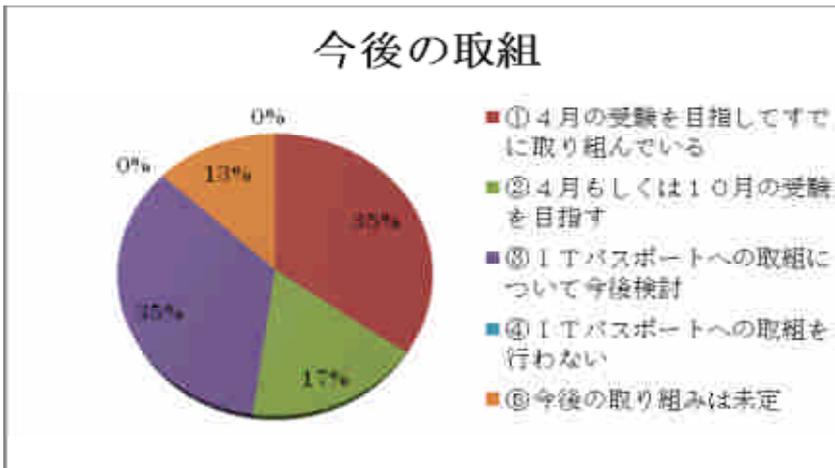
ITパスポートセミナー【広島地区】 2月5日(木曜日)

来場者アンケート 申込者数 26名 来場者数 22名

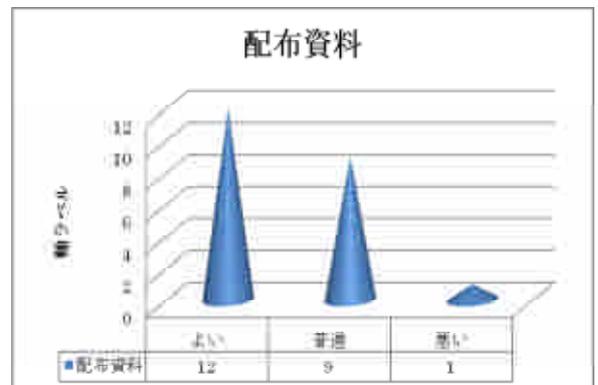
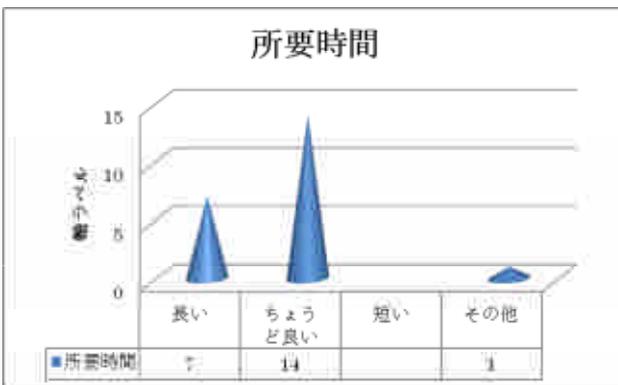
1. 内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



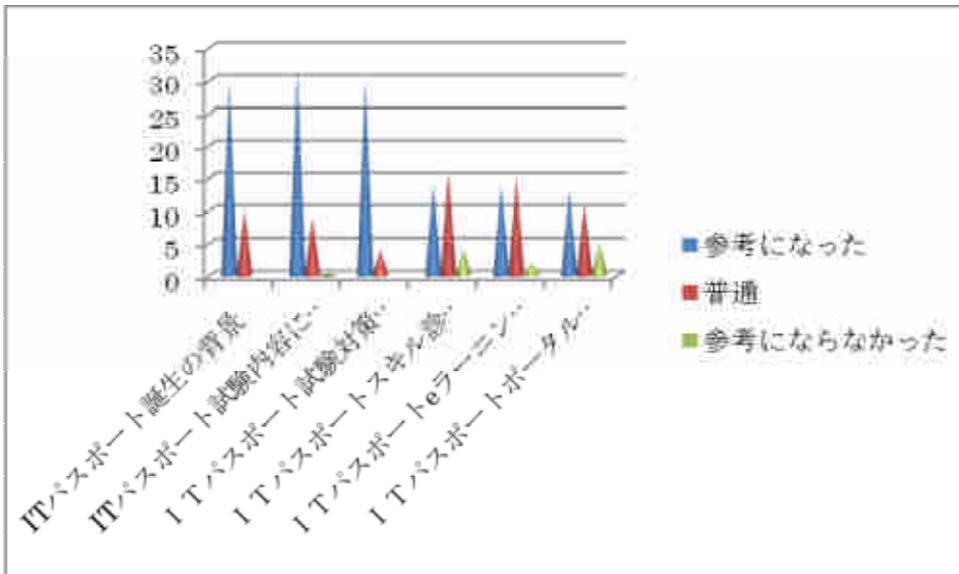
3. 所要時間及び配布資料について



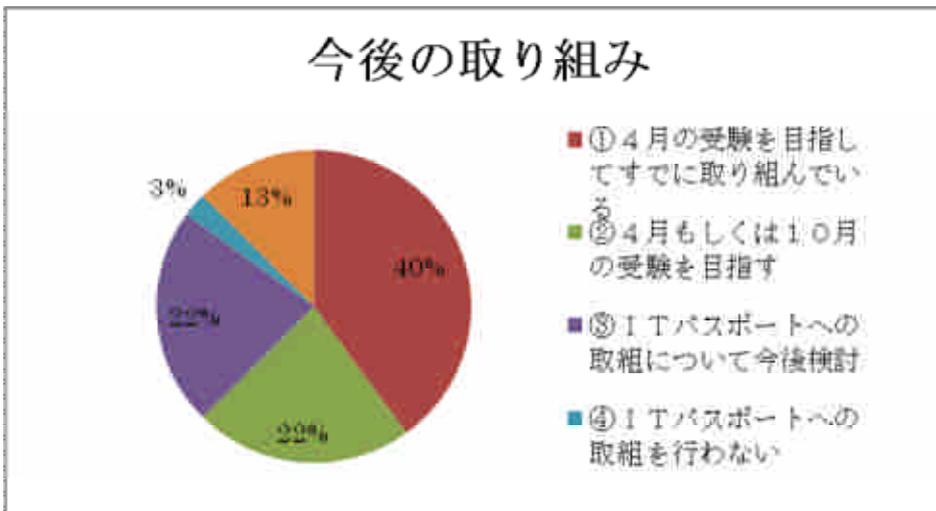
ITパスポートセミナー【札幌地区】 2月9日(月曜日)

来場者アンケート 申込者数 69名 来場者数 55名

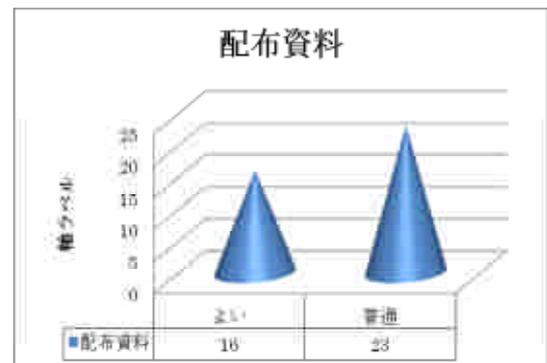
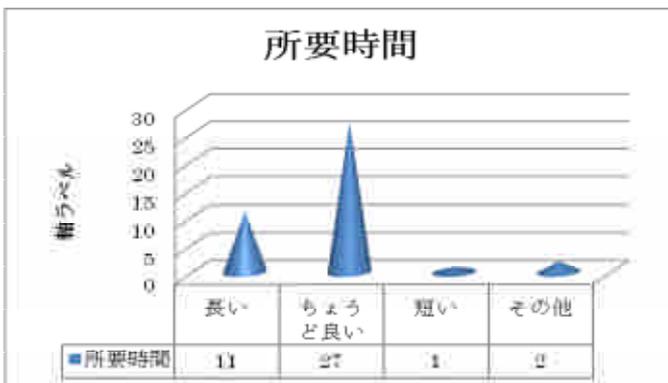
1. 内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



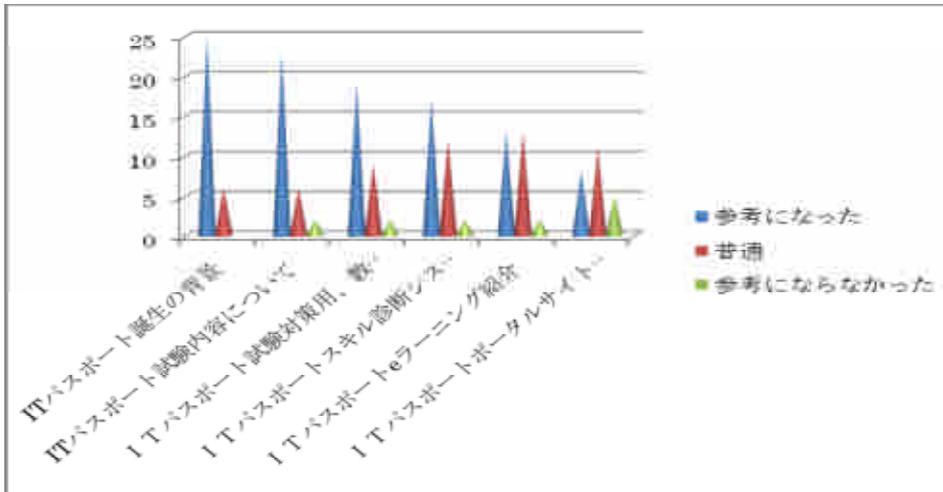
3. 所要時間及び配布資料について



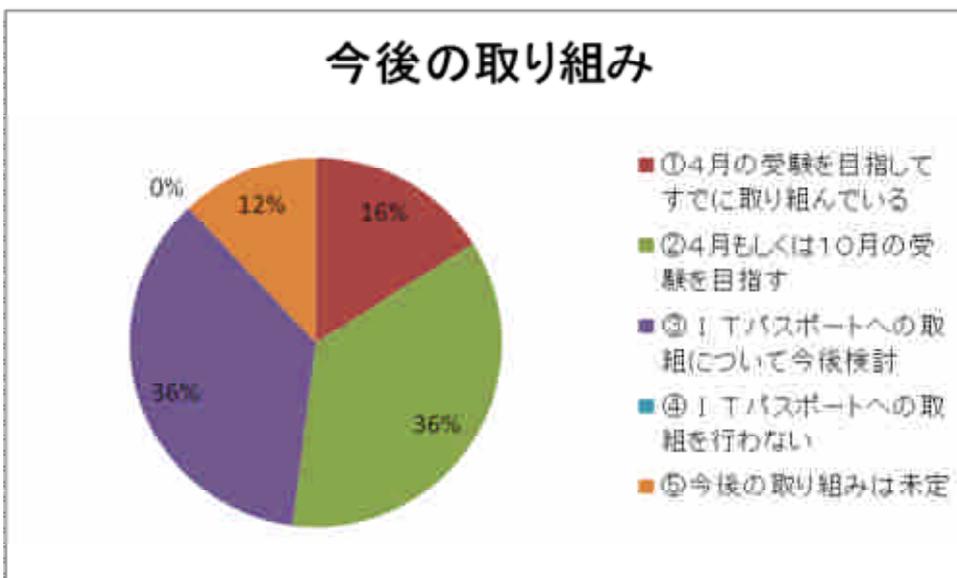
ITパスポートセミナー【東京2地区】 2月13日（金曜日）

来場者アンケート 申込者数 46名 来場者数 36名

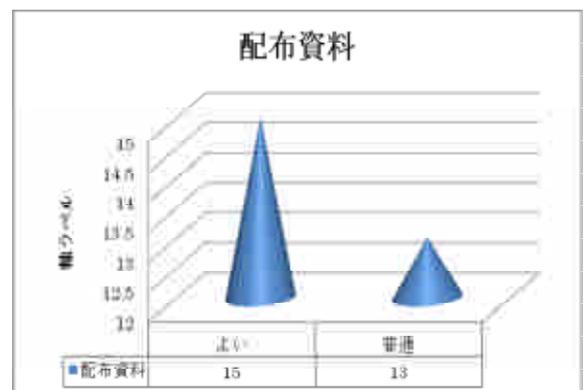
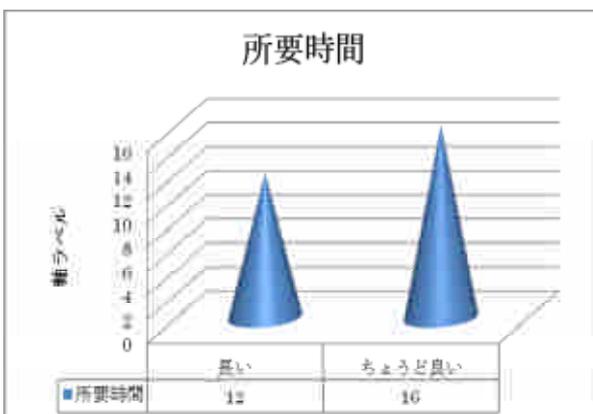
1. 内容について



2. 今後、ITパスポートについてどのように取り組まれますか？



3. 所要時間及び配布資料について



4. セミナー講師所感

今回のセミナーで第二部の「ITパスポート試験に合格するには」で講師を担当された方々のコメントは下記の通りです。

インフォテック・サーブ 取締役 木田氏

初めて実施される試験ということもあり、試験自体の難易度と、取得した場合の社会での認知度について関心をもたれていた方が多いように感じました。高校や大学、専門学校にとっては、企業側がITパスポート試験取得者に対して、どのように評価するのかが不透明な分だけ、資格取得に対する取り組みに悩んでいるようでした。とくに、新規に取り組もうと考えている教育機関はともかく、今まで基本情報技術者試験の取得を目指していた情報系の学校や学科は、今後、レベル1から始めるのか、レベル2から始めるのか、大きな問題になっているようです。ITパスポート試験がCBT化され、いつでも受験できるようになれば、情報系の学校や学科もレベル1から段階的に受験を考えるとと思われるので、より一層、受験者の増加が期待できると思います。是非とも早期に実現していただきたいと思っています。

また、今後もITパスポート試験の合格者に対するメリット（入試優遇制度や単位認定制度を実施している大学等）を中心に、継続してPRしていくことが、試験の定着のためには必要かと思えます。

ネクストエデュケーションシンク 代表取締役 齋藤氏

ネクストエデュケーションシンクはCSAJの人材育委員会のメンバーとして、この度「ITパスポート試験普及セミナー」全国キャラバンに参加し「ITパスポートスキル診断システム」について、ITスキル標準を用いての企業人材育成の重要性と絡めて、スキルの可視化による効果的な教育・学習方法についてご説明させていただきました。会場はどの地区も大学、専門学校、高校、パソコンスクール、教育機関、企業の人事、研修、営業のご担当の方々が大勢参加されており、ITパスポート試験新設の反響が大きいことを実感いたしました。また、ITSSでは、診断の対象としにくかった企業のスタッフ部門、管理部門、営業部門の方々への適用の関心も高かったと思います。さらに、試験後点数が分かるので高校生からでも情報分野の授業の一環として活用できる可能性があるのではという話もありました。

また、今回のセミナーに合わせて、ITパスポート試験の普及に役立てるために、サンプル問題例を用いて誰でも10分間で簡単にCBT客観診断をして試験内容を理解できる無料スキル診断システムを開発し、普及コンソシアムのWebから一般公開いたしました。発表後多数の方々から毎日診断を実施されており、ご好評をいただいております。

さらに、セミナー後も、引き続き様々な方々から直接、ITパスポート試験や基本情報技術者試験に対応した弊社のeラーニング学習教材、模擬試験、ITSSスキル診断システムについてのお問い合わせやご相談もいただいております。またパソコンスクールの皆様の勉強会にも呼ばれて、ご説明する機会もございました。今回の試みは、ITパスポート試験の普及推進の一環としては、タイミングも良く効果的なセミナーであったと感じております。

最後になりますが、今回参加の皆様は真剣に情報を集めておられ、今後の導入を検討される各界の第一陣のオピニオンリーダーの方々ではないかと思えます。これからもまだしばらくは、一般へITパスポート試験普及のための全国セミナーなどが必要なのではないかと感じております。ご関係者の皆様には御礼申し上げます。

富士通エフ・オー・エム 課長 林氏

まず、印象強く感じたのは、参加者の熱心な聴講態度でした。この手の無料紹介セミ

ナーは、当日の欠席者が多く、居眠り等も目立つことが多々あります。しかし、今回のセミナーの参加者はメモを取って、真剣に聞き入る姿がとても印象的でした。私を含め講師陣もほど良い緊張感と強いやりがいを持って講師を務めることができたと思います。結果、主催者側・参加者側ともにとても有益なセミナーとなったと思います。

ライトニング マネジャー 片山氏

セミナーに参加された方々にポータルサイトのご説明をさせていただきましたが、ポータルサイト自体の意味を知らない方が予想以上に多く驚きました。

しかし、どの方も熱心にセミナーの説明を聞いていて、IT パスポートへの関心が非常に高いことを実感しました。

また、IT パスポートを何らかの形で導入したいと考えてはいるものの、まだ実績のない資格なので早々に導入できないという声を多く聞きました。今後はまず IT パスポートの必要性を周知させることにも力を注いでいく必要があると感じました。

5. セミナー主催者所感

今回のセミナー企画・実施責任者としての感想は、まずは成功裡に終わったと思います。当初はどれだけの参加者が期待できるか多少不安でしたが、各地の参加企業のご協力をいただき、多くの参加者に対して IT パスポート試験の内容を伝えることができたのは、当初も目的を十分に果たしたのではないかと思います。この成功を支えてくれたのが、今回の協力されたメンバーの方々です。特に IPA の下出リーダーには 5 回もご参加いただき、このセミナーの重みづけとして十分にその役割を果たしていただけたと思います。また、林副センター長にも同様ご足労いただきました。同時に IPA の方にはこのセミナーでの参加者の期待に満ちた視線を十分に感じていただけたと思っています。この市場を十分にご理解いただき、IT パスポートを含めた新情報処理技術者試験制度の普及のために今後の対策を十分にご検討いただきたいと思います。

一方、参加された企業の方々には手弁当での参加をお願いしましたが、きっと今後のビジネスにつながる商談や問い合わせがあったのではないかと思います。参加者の 90% 近くが今後何らかの形で IT パスポート試験への対応を検討するとのコメントを残されています。今後、IT パスポート試験の普及によるビジネスの拡大への活躍を期待しています。

CSAJ の人材育成委員会では、来年度も IT パスポート試験の推進を続ける予定です。

また、IT パスポート試験を下支えする ITSS 体系構築も推進する方針であります。

今後も人材育成委員会へのご参加とご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、今回のセミナー実施に際して、CSAJ 事務局の多大なるご支援をいただいたことを感謝いたします。

2009 年 2 月 27 日
CSAJ 人材育成委員会
委員長 宇野和彦（記）

平成 20 年度 人材育成委員会 活動報告書

平成 21 年 3 月 発行

発行 社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-15 日本自転車会館 1 号館 5 階
TEL : 03-3560-8440 FAX : 03-3560-8441
URL : <http://www.csaj.jp/>

©2009 Computer Software Association of Japan